

Sun Java™ Enterprise System リリースノート (HP-UX 版)

Version 2005Q4

Part No. 819-5977

このリリースノートには、Sun Java Enterprise System 2005Q4 for HP-UX がリリースされた時点で入手可能な重要な情報が記載されています。既知の制限事項と問題点、インストールに関する注意点、およびその他の情報が含まれています。Sun Java Enterprise System ソフトウェアをインストールする前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートは、Sun Java Enterprise System マニュアルの Web サイト <http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4> で参照できます。ソフトウェアをインストールおよび設定する前、およびそれ以降も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新のリリースノートと製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の各節で構成されています。

- [リリースノート改訂履歴](#)
- [Sun Java Enterprise System 2005Q4 for HP-UX について](#)
- [このリリースの新機能](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [HP-UX のインストールに関する注意点](#)
- [既知の問題および制限事項](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [Sun が提供しているその他のリソース](#)

このリリースノートで紹介されているサードパーティーの URL を参照すると、追加および関連情報を入手できます。

注 Sun は、このリリースノートに記載されたサードパーティーの Web サイトの有効性および有用性に関して責任を負いません。Sun は、これらのサイトまたはリソースで利用可能な内容、広告、製品、他の資料に関し、それらを保証することも、責任や義務を負うこともありません。Sun は、これらのサイトやリソースで利用可能な内容、製品、またはサービスを使用または信頼することに起因するいかなる直接的または間接的な損害についても責任を負いません。

リリースノート改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	説明
2006 年 2 月	商用リリース。
2005 年 11 月	ベータリリース。

Sun Java Enterprise System 2005Q4 for HP-UX について

この節では、Sun Java Enterprise System ソフトウェアを HP-UX の動作環境にインストールするために必要な情報を記載します。この節では、次のトピックについて説明します。

- [Sun Java Enterprise System の HP-UX 用コンポーネント](#)
- [HP-UX でサポートされないコンポーネント](#)
- [ハードウェアおよびソフトウェアの要件](#)

このリリースの新機能

ここでは、Java ES 2005Q4 の新機能を一覧で示します。お客様にとってより価値あるものとするために、Sun は既存の製品に拡張機能を追加しました。次に示す製品が、完全サポートで Java Enterprise System ライセンスに追加されました。これらの製品は、その他の Java Enterprise システム製品群と同様に、系統立てられた機能で保守されます。

- Sun Java System Access Manager 7 2005Q4 - 更新
- Sun Java System Web Proxy Server 4.0.1 2005Q4 - 新規
- Service Registry 3 2005Q4 - 新規

システムレベルのプラットフォームサポート

ここでは、Java ES 2005Q4 に対する現行の OS およびブラウザのサポートを示します。

オペレーティングシステム

- HP-UX 11i (PA-RISC)

サポートされるブラウザ

- Netscape 7.0
- Internet Explorer 6.0 (Windows XP Professional)
- Internet Explorer 5.5 SP2 (Windows 2000)
- Mozilla 1.7

以降の詳細については、それぞれのリリースノートを参照してください。それらのリリースノートはすべて <http://docs.sun.com/app/docs/coll/1258.2> で参照できます。

表 2 Java Enterprise System コンポーネントの新機能

コンポーネント	製品
Access Manager	<ul style="list-style-type: none">• 新しい委任管理モデル• 改善されたログファイル• パーソナライゼーション属性• ポリシー状態 (アクティブ / 停止)• 一括連携• 認証名前付き設定または連鎖名前空間• 複数認証インスタンスのサポート• 新機能の内容については、Access Manager のリリースノートを参照してください (http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-5984?l=ja)
Service Registry	このリリースの新製品
Web Proxy Server	このリリースの新製品

Sun Java Enterprise System の HP-UX 用コンポーネント

Sun Java Enterprise System の HP-UX バージョンでは、次のコンポーネントがサポートされています。

- Sun Java System Access Manager 7 2005Q4
- Sun Java System Administration Server 5 2005Q4
- Sun Java System Application Server 8.1 2005Q4
- Sun Java System Calendar Server 6 2005Q4
- Sun Java System Directory Proxy Server 5 2005Q4
- Sun Java System Directory Server 5 2005Q4
- Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q4
- Sun Java System Message Queue 3 2005Q4, Enterprise Edition
- Sun Java System Messaging Server 6.2 2005Q4
- Sun Java System Portal Server 6 2005Q4
- Sun Java System Web Server 6.1 2005Q4
- Service Registry 2005Q4

- Sun Java System Web Proxy Server 4.0.1 2005Q4

HP-UX でサポートされないコンポーネント

HP-UX 環境の Sun Java Enterprise System は、次のコンポーネントおよび機能をサポートしません。

- BEA WebLogic 用および IBM WebSphere 用の Web コンテナサポート
- HADB サーバー。Solaris 用の HADB サーバーは、次の場所からダウンロードできます。
<http://www.sun.com/download/sdl.jsp?2a1c7bbd=1>
- Apache および IIS の各 Web サーバー用のロードバランササポート

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

この HP-UX リリースの Sun Java Enterprise System は、HP-UX 11i (11.11) PA-RISC プラットフォームのみでサポートされています。次の表に、Java ES の完全インストールのハードウェアおよびソフトウェアの要件を示します。

表 3 Java ES の完全インストールのハードウェアおよびソフトウェアの要件

オペレーティングシステム	ハードウェア の最小構成	RAM の最低容量	推奨される RAM 容量	RAM	スワップ容量
HP-UX11.11	PA-RISC 800MHz	2G バイト	4G バイト	4196M バイト以上	6G バイト

RAM および HDD の要件

Sun Java Enterprise System を HP-UX システムにインストールするには、次の条件を満たすようにしてください。

- /tmp に最低 1G バイトの空き容量
- /var に最低 1G バイトの空き容量
- /opt に最低 1G バイトの空き容量
- /usr に最低 2G バイトの空き容量
- / に最低 500M バイトの空き容量
- 最低 4G バイトの RAM

ディスクおよびメモリーの要件

Sun Java Enterprise System および関連するコンポーネントには、最低 2G バイトのディスク容量が必要です。次の表に、コンポーネントごとのディスクおよびメモリーの要件の一覧を示します。

表 4 コンポーネントのディスク容量と RAM の要件

コンポーネント	インストール用の最小限のディスク容量と RAM 要件
Access Manager	250M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Administration Server	200M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Application Server	700M バイトのディスク容量、2G バイトの RAM
Calendar Server	500M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Communications Express	250M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Directory Proxy Server	300M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Directory Server	250M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Instant Messaging	300M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Message Queue	20M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Messaging Server	500M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Portal Server、Portal Server SRA	700M バイトのディスク容量、2G バイトの RAM
Web Server	300M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Web Proxy Server	250M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Service Registry	250M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM

ディスク容量および RAM 要件の詳細は、「このリリースで修正されたバグ」に記載されている各リリースノートを参照してください。

ソフトウェアの要件

HP-UX ソフトウェアグループの要件

この HP-UX リリースの Sun Java Enterprise System には、次の Perl プログラミング言語パッケージが必要です。

Perl (B.5.6.1.F) HP-UX11i

Java 2 Standard Edition の要件

この HP-UX リリースの Sun Java Enterprise System は、Hewlett Packard が提供する Java 2 Standard Edition (J2SE) 1.5.0.01.00 で検証済みです。

Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストーラの実行前、またはコンポーネントのいずれかをインストールする前に、Java 2 Standard Edition (J2SE) 1.5.0 (JDK および JRE) をインストールしてください。

システムに J2SE 1.5.0.01.00 実行環境パッケージ Jre15 がすでにインストールされていて、J2SE 1.5.0.01.00 開発ツールパッケージ Jdk15 がない場合は、Java Enterprise System をインストールする前に開発ツールパッケージをインストールしてください。このパッケージには、Java Enterprise System で必要な機能がいくつか含まれています。システムにインストールされている J2SE のバージョンを判別する方法、および Java Enterprise System をインストールする前にシステムの準備をする方法の詳細については、『Java Enterprise System インストールガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-3313?l=ja>) を参照してください。

▶ J2SE インストールに関する情報を収集するには

1. シンボリックリンク `/usr/jdk/entsys-j2se` を検査して、Java Enterprise System で使用する J2SE インストールの位置を確認します。

```
# ls -l /usr/jdk/entsys-j2se
```

2. リンクの指し示す位置を書き留めておきます (例: `/opt/java1.5`)。
3. バージョン番号を書き留めます。
4. Java Enterprise System で使用する J2SE インストールのバージョンを確認します。

```
/opt/java1.5/bin/java -fullversion
```

必須パッケージごとに、次の手順を実行します。

パッケージのすべてのインスタンスに関する情報を表示します。

```
swlist -l product Jre15
```

```
swlist -l product Jdk15
```

このリリースで修正されたバグ

Java Enterprise System 2005Q4 で修正されたバグの一覧を次の表に示します。コンポーネントが一覧にない場合は、2005Q4 でバグは修正されませんでした。

表 5 このリリースで修正されたバグ

バグ番号	説明
インストールに関するさまざまな問題	
6225803, 6225809	複数のバージョンの <code>comm_dsetup.pl</code> が存在する
6210690	Sun Cluster HA 環境では、Directory Server および Messaging Server、およびそれぞれ対応する管理サーバーをインストールできない
6182249	インストーラが X11 ウィンドウサーバーに接続できない場合、サイレントインストールが失敗する
5103675	管理サーバーのインストール時に、GUI インストーラで FQDN の入力が必要とされない
5020621	CD インストール中にパスワードが画面に表示される
Access Manager のインストール	
5045612	既存のコンソールでプロトコルを入力できない
5048518	Web Server でインスタンスを作成すると例外がスローされる
Application Server のインストール	
5110257	前のバージョンの Application Server がシステムに存在する場合、インストールが失敗する
6300530	Web Server もインストールしないと、Application Server 負荷分散プラグインをインストールできない
Messaging Server の設定	
6206104	不正な <code>store.sub</code> を修正するツールが必要である。
6199714	不在返信テキストが保存時に壊れてしまう。ハードリターンが保持されない。
Messenger Express/Communications Express	
6196347	添付の保存が機能しなくなった
6192219	Regression: 自動スペルチェックが削除された
Delegated Administrator	

表 5 このリリースで修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
6239311	全組織の「ドメイン状態」か「メールサービス状態」を変更すると、「ドメインのディスク制限容量」の値が失われる
Portal Server	
5106639	SRA のために amconsole CSS のルール更新が必要である。
6265800	アップグレード後に間違ったバージョンが表示される
6186633	リモートサーバーとの接続が確立した後に (約 10 ~ 15 秒後)、Netlet がクラッシュする。
6267944	アップグレード後に Portal Server Secure Remote Access のバージョンが表示されない。
6267783	Portal Server へのログイン時に、情報自体は有益だが問題のあるページがユーザーに表示される。
6278810	ポータルをポート 443 上に配備できない。
6286949	ポータルが SSL 有効の場合に、pdeploy が失敗する。
5085361	Portal Server デスクトップが、SSL 終了を実行するロードバランサと正常に協調しない
6285755	proxylet ルールウィンドウを呼び出し中に、ページにエラーが表示される。
6273080	匿名ポータルデスクトップの代わりに server.log のブランクページ例外を受け取る
6211569	UWC アドレス帳チャンネルがプロキシ認証と協調しない
6229250	Portal Desktop 上で MS 連絡先にアクセスできない
6254381	XMLProvider が正しく同期されない。
5082722	netlet ルールの上限は 30 個
6216175	UWC アドレス帳チャンネルが失敗する (さらに 118540-09 以降が必要)
6224122	アプレットの署名証明書が期限切れになった。
6225341	MS 連絡先に対して proxy-auth が失敗する
6229071	UWC Calendar Mail タブリンクの問題
6230844	アップグレード後に Proxylet のルールを保存できない
5101574	perftune が AS 8.1 に関して最新ではない

表 5 このリリースで修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
6184747	メール、アドレス帳、およびカレンダーのコンテキストにリセットオプションを提供する
6189951	ポータルサービス管理コンソールで AS 8.1 マルチバイト文字が正しく表示されない。
6192579	アップグレード後にゲートウェイが開始しない。
6201701	Proxylet をダウンロード後にデスクトップページがダウンロードされない。
6207552	アップグレード後に Proxylet 管理ウィンドウが以前とは違う表示になる。
6208239	承認されていないモバイルデスクトップにアクセス中に <code>IllegalStateException</code> が発生する。
6209451	アップグレード中に、ポータル Web アプリケーションの配備が失敗する。
6209931	アップグレード (6.3 から 6.3.1) 後に、ゲートウェイが開始しない。
6209932	<code>psupgrade</code> スクリプトが <code>wcconfig</code> の実行を不要なときに要求する。
6211208	ポータルの製品名が誤って表示される。
6212866	<code>psconfig</code> に <code>scrubds</code> オプションを指定して実行した後、設定中にポータルサービスがロードされない。
6212868	<code>psconfig</code> に <code>unconfigure</code> を指定して実行した後、ポータルの再設定が失敗する。
6213441	<code>perftune</code> がパスワードを <code>amtune</code> に渡さない。
6214157	アップグレード後に、Java Web Start で <code>netlet</code> がロードされない。
6214602	Java ES 2004Q2 から Java ES 2005Q1 にアップグレード後に、 <code>netlet proxy</code> が動作しない。
6214609	アップグレード後に、 <code>appserver 7.0</code> 上で WSRP が正常に動作しない。
6216521	<code>upgradePS</code> スクリプトがポータルの配備に失敗する。
6218094	ゲートウェイが、デバッグオプションを指定したときにしか <code>chroot</code> モードで起動しない。
6218887	ポリシー評価がデスクトップで無効になる。
Portal Server SRA に関する問題	

表 5 このリリースで修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
6215043	ポータルサーバー SRA 設定の対話型モードで配備に失敗する。
Web Proxy Server	
6265163	Java ES 2005Q4: Web Proxy Server の再インストールが失敗する

互換性に関する問題

Java ES インストーラを実行する場合、Access Manager 7 2005Q4 には、2 種類のインストールタイプ (またはモード) があります。

- 互換 (6.x) タイプは、Access Manager 6 互換コンソールとディレクトリ情報ツリー (DIT) を含む Access Manager 6 の機能をサポートします。
- 拡張 (7.x) タイプは、新しい Access Manager 7 コンソールを含む Access Manager 7 の機能をサポートします。

Portal Server、Messaging Server、Calendar Server、Instant Messaging、および Delegated Administrator は、Access Manager 7 2005Q4 拡張 (7.x) インストールタイプと互換性がありません。Portal Server、Messaging Server、Calendar Server、Instant Messaging、または Delegated Administrator とともに Access Manager をインストールする場合は、Access Manager 互換 (6.x) インストールタイプ (デフォルト) を選択する必要があります。

詳細については、Access Manager のリリースノートを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-5984?l=ja>

コンポーネント間の互換性に関する問題

次の表に、Java ES 2005Q4 コンポーネントの互換性に関する問題の一部を示します。具体的な情報については、上のリンクを使って、コンポーネントレベルの適切なリリースノートを参照してください。

表 6 コンポーネント間の互換性に関する問題

コンポーネント	問題
Access Manager 7 2005Q4	<p>Release 4 の Access Manager の新機能には、いくつかの新しいインタフェースが含まれています。Access Manager によるこれらの新しいインタフェースのサポートは、拡張 (レلم) モードで実行するように Access Manager を設定することによって有効になります。ただし、レلمモードは、前の Java ES 2005Q1 または 2004Q2 Access Manager とは互換性がありません。たとえば、レلمモードでの操作をサポートするには、ディレクトリデータを移行する必要があります。拡張 Access Manager サービスをサポートするには、拡張 Access Manager コンソールが必要です。また、レلمモードでは、Portal Server、Communications Express、Messaging Server など、ほかの Java ES コンポーネントはサポートされません。下位互換性をサポートするために、旧バージョンモードで実行するように Release 4 Access Manager を設定できます。</p> <p>Access Manager ポリシーエージェントだけでなく、他の Java ES コンポーネントをサポートするためにも、旧バージョンモードは必要です。現在 Access Manager ポリシーエージェントはレلمモードの Access Manager と相互運用することができません。このように互換性がないため、アップグレードを考慮することは重要であり、ほとんどの Java ES 配備で Access Manager を Release 4 の旧バージョンモードにアップグレードする必要があります。</p>
Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q2	<p>asaadmin コマンド <code>-secure</code> と <code>-s</code> オプションの動作は、前のリリースの場合と同じではありません。詳しい解決策 (および CR 6296862) については、製品のリリースノートを参照してください。</p>
Communications Express Java ES 2005Q4	<p>Java ES 2005Q4 Communications Express のユーザーインタフェース (UI) で互換性がなくなりました。</p> <p>Java ES 2005Q4: イベントの開始時間と終了時間を指定する必要があります。</p> <p>Java ES 2005Q1: イベントの開始時間と継続時間を指定する必要があります。</p>

表 6 コンポーネント間の互換性に関する問題 (続き)

コンポーネント	問題
Communications Services Delegated Administrator 6 2005Q4	<p>このコンポーネントには 2 つの問題があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Access Manager には、レルムモードと旧バージョンモードの 2 つのインストールタイプができました。旧バージョンモードがデフォルトです。 2. Access Manager を version 6.x から 7.0 (Java ES Release 4) にアップグレードしても、Delegated Administrator は version 6 2005Q4 (Java ES Release 4) にアップグレードされません。Delegated Administrator のコンソールまたはユーティリティーで、メールサービスまたはカレンダーサービスを使ったユーザー作成が失敗します。詳しい解決策については、リリースノートを参照してください。
Message Queue 3 2005Q1 (3.6)	<p>インタフェースの安定性 : Sun Java Message Queue では、管理者が作業を自動化するのに役立つ多数のインタフェースを使用します。『Message Queue 管理ガイド』の付録 B では、安定性に従ってインタフェースを分類しています。インタフェースの安定性が高いほど、後続のバージョンの製品でインタフェースが変わる可能性は低くなります。</p> <p>推奨されないパスワードオプション : 次のオプションはセキュリティ上の理由で推奨されなくなりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> -p -password -dbpassword -ldappassword
Messaging Server 6 2005 Q4	<p>Java ES 2005Q1 の Messaging Server 6 2005Q4 でユーザー管理コンソールが機能しません。管理コンソールを開くと、ほかの製品コンポーネントを起動したり停止したりできます。しかし、Messaging Server を選択した場合、管理コンソールでは Messaging Server 6 の新しいウィンドウは開きません。解決策については、リリースノートを参照してください。</p>

表 6 コンポーネント間の互換性に関する問題 (続き)

コンポーネント	問題
Java ES 2005Q4 インストーラ	<p>Java ES 2005Q4 インストーラでは、Web コンテナの選択に関して新しくアラートが表示されます。次のリストの各コンポーネントで、Java ES Web コンテナをインストールするか、すでにインストールされている互換性のある Web コンテナを使用できます。このアラートは、Java ES 2004Q2 または Java ES 2005Q1 では表示されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Java System Web Server 6.1 SP5 2005Q4 • Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q2 Update 2 • 前にこのシステムにインストールされた互換性のある Web コンテナ。
Instant Messaging 7 2005Q4	<p>この問題は、Instant Messaging Server を Java ES 2004Q2 から Java ES 2005Q1 または Java ES 2005Q4 にアップグレードしたくない管理者に当てはまります。また、Java ES 2004Q2 システムですべての共有コンポーネントを Java ES 2005Q4 Instant Messenger にアップグレードしたあとで、マルチプレクサは例外をスローします。最新の解決策については、製品リリースを参照してください。本質的には、Java ES 2004Q2 Instant Messaging は Java ES 2005Q4 共有コンポーネントと互換性がありません。</p>

重要な情報

この節では、次のトピックについて説明します。

- [コンポーネントのリリースノート](#)
- [HP-UX のパッチ要件](#)
- [Netscape Security Services 3.9.5 のサポート](#)
- [障害者のためのアクセシビリティ機能](#)

コンポーネントのリリースノート

Sun Java Enterprise System コンポーネントに固有のすべての情報は、各コンポーネントのリリースノートに記載されています。コンポーネントのリリースノートは、次の場所で参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1258.2>

- Access Manager 7 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-5984?l=ja>
- Administration Server 5 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-5970?l=ja>
- Application Server Enterprise Edition 8 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6081?l=ja>
- Calendar Server 6 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6074?l=ja>
- Directory Proxy Server 5 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6067?l=ja>
- Directory Server 5 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6060?l=ja>
- Instant Messaging 7 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6040?l=ja>
- Message Queue 3 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6033?l=ja>
- Messaging Server 6 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6026?l=ja>
- Portal Server 6 2005Q4 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6019?l=ja>
- Web Server 6.1 SP4 2005Q1 リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6012?l=ja>
- Service Registry リリースノート (HP-UX 版)
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-5998?l=ja>
- Web Proxy Server リリースノート (HP-UX 版)

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-6005?l=ja>

HP-UX のパッチ要件

この節では、次のトピックについて説明します。

- [Sun Java Enterprise System の HP-UX パッチアップデートの入手](#)
- [Java Enterprise System コンポーネントの実行に必要な HP-UX パッケージ](#)
- [パッチに関する情報](#)

Sun Java Enterprise System の HP-UX パッチアップデートの入手

Sun Java Enterprise System の各コンポーネントのパッチ要件については、「[コンポーネントのリリースノート](#)」に記載されている各リリースノートを参照してください。

▶ HP-UX 11.11i パッチを入手するには

1. <http://www.itrc.hp.com> を表示します。
2. 「IT リソース・センタ」パネルの「ログイン」をクリックします。
「ログイン / 登録」ページが表示されます。
ログイン情報を設定していない場合は、次のように作成します。
 - a. 「新規ユーザ」の下の「登録」をクリックします。
「登録情報」ページが表示されます。
 - b. 「お名前」、「会社名」、「パスワード」などの詳細情報を入力します。
 - c. 「終了」をクリックします。
ユーザー ID が記載された確認メールが ITRC から送られてきます。このユーザー ID とパスワードを使用して、ITRC サイトにログインしてください。
3. ユーザー ID とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。
「IT リソース・センタ」ページが表示されます。
4. 「メンテナンス / サポート (hp 製品)」セクションの下の「パッチ / ファームウェアデータベース」をクリックします。
「パッチ / ファームウェアデータベース」ページが表示されます。
5. 「特定パッチの検出」セクションの下に、ダウンロードする必要があるパッチ名を入力します。
たとえば、Access Manager には PHSS_30966 をインストールする必要があります。このパッチの検索を実行すると、次の結果が表示されます。
 - a. 指定 (hp 評価)

- b. 推奨 (hp 評価)
- c. 最新 (hp 評価)
6. ダウンロードするパッチのバージョンを選択します。
7. 「選択済みパッチリストに追加」をクリックします。
「選択したパッチのダウンロード」オプションが表示されます。
8. ダウンロードオプションの指示に従って、必要なパッチをインストールします。

Java Enterprise System コンポーネントの実行に必要な HP-UX パッケージ

一部の Java Enterprise System コンポーネントを HP-UX で実行するためには、次のシステムパッケージをインストールすることも必要です。

- GOLDAPPS11i (2004 年 6 月)
- GOLDBASE11i (2004 年 6 月)
- Java Out of box 2.03.01
- Tour A.02.02
- gettext 0.14.1
- gettext 0.14.1
- PHKL_32035
- PHCO_25841
- PHKL_26269
- PHKL_28025

パッチに関する情報

指定したコンポーネントのパッチの詳細については、[15 ページ](#)の「コンポーネントのリリースノート」を参照してください。

また、<http://sunsolve.sun.com> の SunSolve を参照してください。「Patch Portal」に移動します。「Recommended Patch Clusters」をクリックし、「Java Enterprise System Component Patches」を選択します。パッチを探している製品を検索して、その製品のリンクをクリックできます。

製品コンポーネントを JES3 から JES4 にアップグレードする手順の詳細については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Upgrade Guide for HP-UX』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4460>) を参照してください。

Netscape Security Services 3.9.5 のサポート

Netscape セキュリティーライブラリの version 3.9.5 は、Java Enterprise System に含まれています。Directory Server、Directory Proxy Server、および管理サーバーは、/opt/sun/private/lib の下にもインストールされているこれらのライブラリの古いバージョン (3.3.x) に依存する場合がありますが、これらのライブラリに依存するその他のコンポーネント製品はすべて、/opt/sun/private/lib の下にインストールされている新しいバージョン (3.9.5) に依存します。

Netscape セキュリティーライブラリの version 3.9.5 は、Sun Java Enterprise System に含まれています。Directory Server、Directory Proxy Server、および管理サーバーは、/opt/sun/private/lib の下にインストールされているライブラリのバージョンに依存します。

障害者のためのアクセシビリティー機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティー機能を入手するには、Sun に米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティーに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。更新されたバージョンのアプリケーションは、

<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。

アクセシビリティーに対する Sun の対応については、<http://sun.com/access> を参照してください。

HP-UX のインストールに関する注意点

Sun Java Enterprise System を HP-UX 環境にインストールする手順と作業は、Solaris 環境にインストールする場合と非常に似ています。Sun Java Enterprise System の基本的なインストール手順については、『Sun Java Enterprise System インストールガイド (UNIX 版)』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3313?l=ja>) を参照してください。

ただし、HP-UX 版では異なる点があります。HP-UX に固有の問題と作業について、次の各節で説明します。

- サポートされない機能
- [Sun Java Enterprise System ソフトウェアの入手](#)
- [Sun Java Enterprise System ソフトウェアの DVD からのインストール](#)
- [ディレクトリ、コマンド、およびパスの比較](#)
- [Sun Java Enterprise System コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリ](#)

- インストール可能なパッケージ
- インストール後の設定
- コンポーネントの起動と停止
- インストールに関する問題のトラブルシューティング

サポートされない機能

HP-UX 上の Java Enterprise System は Sun Cluster、Sun Remote Services Net Connect、サードパーティー製 Web コンテナ (BEA WebLogic または IBM WebSphere)、および Apache Web サーバーと IIS Web サーバーをサポートしていません。

Sun Java Enterprise System ソフトウェアの入手

1. 次の場所にアクセスします。
<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/>
2. HP-UX の zip ファイルをダウンロードします。
3. 次のように、ファイルを解凍します。

```
unzip java_es_05q4-hpux-parisc.zip
```


ディレクトリフォルダは HPUX_PA-RISC です。

注 Java ES を HP-UX にインストールする前に、次の場所にある『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド (UNIX 版)』の「インストールの準備」をお読みください。
(<http://docs.sun.com/source/819-3313?l=ja>)

次の表に、Sun Java Enterprise System HP-UX ディストリビューションの項目を示します。

表 7 Sun Java Enterprise System パッケージ内容の例

項目	説明
HPUX/Copyright	この Sun Java Enterprise System ディストリビューションの著作権表示です。
HPUX/README	この Sun Java Enterprise System ディストリビューションの README ファイルです。
HPUX/HPUX_PA-RISC/installer	Sun Java Enterprise System のインストールプログラムです。

表 7 Sun Java Enterprise System パッケージ内容の例 (続き)

項目	説明
HPUX/HPUX_PA-RISC/Product/	パッケージ、ツール、ローカライズファイルなど Sun Java Enterprise System がインストール時に使用するファイルを格納するサブディレクトリを含むディレクトリです。

Sun Java Enterprise System ソフトウェアの DVD からのインストール

次に、Sun Java Enterprise System ソフトウェアを DVD からインストールする手順を示します。

1. 新しいディレクトリを作成します
`mkdir <インストーラディレクトリ名>`
2. DVD を挿入してマウントします。
`mount -o ro,rr,cdcase <マウント先> <インストーラディレクトリ名>`
3. ディレクトリを変更します
`cd <インストーラディレクトリ名>/HPUX/HPUX_PA-RISC/`
4. `sh installer`

ディレクトリ、コマンド、およびパスの比較

次の表に、Solaris に対応する HP-UX のディレクトリ、コマンド、およびパスを示します。

表 8 Solaris と対比した HP-UX のディレクトリとパス

Solaris	HP-UX	説明
/opt	/opt/sun	デフォルトのインストールディレクトリ
/var	/var/opt/sun	デフォルトの設定ファイルディレクトリ
/etc	/etc/opt/sun	デフォルトのインストールおよび設定ディレクトリ
/var/opt/mps/serverroot	/opt/sun/mps/serverroot	Directory Server、管理サーバー、および Directory Proxy Server のデフォルトサーバールート
/var/sadm/install/logs	/var/opt/sun/install/logs	デフォルトのインストールログディレクトリ

表 8 Solaris と対比した HP-UX のディレクトリとパス (続き)

Solaris	HP-UX	説明
/var/sadm/prod/entsys	/var/sadm/prod/entsys	デフォルトのインストーラ格納場所
/usr/jdk/entsys-j2se	/usr/jdk/entsys-j2se	デフォルトの最新 JRE リンク
/var/sadm/install/produ ctregistry	/var/adm/sw/productregistry	製品レジストリの格納場所

表 9 HP-UX コマンドと Solaris コマンドの比較

Solaris	HP-UX	説明
pkginfo	swlist	Sun Java Enterprise System パッケージとパッケージのパラメータを表示します
pkginfo -v	swlist -v	Sun Java Enterprise System パッケージとリリース情報を表示します
pkgrm	swremove	Sun Java Enterprise System パッケージを削除します
pkgadd	swinstall	Sun Java Enterprise System パッケージをインストールします
pkgparam	swlist	Sun Java Enterprise System パッケージとパッケージのパラメータを表示します
prodreg	swlist sun-*	インストールされている Sun Java Enterprise System ソフトウェアを表示します

Sun Java Enterprise System コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリ

特に指定しない限り、Sun Java™ Enterprise System インストーラはコンポーネントを自動的にデフォルトのディレクトリにインストールします。ほとんどの場合、「今すぐ設定」オプションを使用しているときには、特定の場所を指定してデフォルトの場所を上書きすることができます。

次のコンポーネントのインストールディレクトリには制約があります。

- **Directory Server:** Directory Server のインストール場所を指定することはできません。ただし、Directory Server のランタイム設定データを格納する場所を指定することはできます。
- **Portal Server Secure Remote Access:** Portal Server Secure Remote Access Core と Portal Server を同じ場所にインストールする必要があります。
- **Message Queue:** インストールディレクトリの場所を変更することはできません。

次の表に、Sun Java Enterprise System コンポーネントのデフォルトのインストールディレクトリを示します。

表 10 デフォルトのインストールディレクトリ

ラベルおよび状態ファイルのパラメータ	デフォルトディレクトリ	備考
Access Manager CMN_IS_INSTALLDIR	/opt/sun	
Application Server CMN_AS_INSTALLDIR	/opt/sun	Application Server のすべてのユーティリティー、実行可能ファイル、およびライブラリが、ここに格納されます。
Application Server ドメイン CMN_AS_DOMAINSDIR	/var/opt/sun/appserver/domains	管理ドメインが作成されるデフォルトの領域です。
Calendar Server CMN_CS_INSTALLDIR	/opt/sun	
Communications Express CMN_UWC_INSTALLDIR	/opt/sun/uwc	
Directory Server、サーバールート CMN_DS_SERVER_ROOT	/opt/sun/mps/serverroot	
Directory Preparation Script	/opt/sun/comms/dssetup	
Directory Proxy Server CMN_DPS_INSTALLDIR	/opt/sun	
Instant Messaging CMN_IIM_INSTALLDIR	/opt/sun	
Instant Messaging リソースディレクトリ CMN_IIM_DOCSDIR	/opt/sun/im/html	
Instant Messaging オンラインヘルプディレクトリ CMN_IIM_DOCSHELDIR	/opt/sun/im/html/en/imhelp	
Message Queue	適用なし	インストールディレクトリを変更することはできないので、インストーラにフィールドはありません。また、状態ファイルにパラメータはありません。
Messaging Server CMN_MS_INSTALLDIR	/opt/sun	

表 10 デフォルトのインストールディレクトリ (続き)

ラベルおよび状態ファイルのパラメータ	デフォルトディレクトリ	備考
Portal Server CMN_PS_INSTALLDIR	/opt/sun	
Portal Server Secure Remote Access CMN_SRA_INSTALLDIR	/opt/sun	Portal Server Secure Remote Access コアは、Portal Server と同じディレクトリにインストールする必要があります。
Web Server CMN_WS_INSTALLDIR	/opt/sun	デフォルトでは、Web Server のコンテンツは、この <code>webservice</code> ディレクトリに格納されます。
Service Registry CMN_REG_SERVER_ROOT	/opt/sun	
Web Proxy Server CMN_WPS_INSTALLDIR	/opt/sun	

インストール可能なパッケージ

次の節では、Sun Java Enterprise System インストーラによってインストールされる HP-UX 11.11i パッケージを示します。

- HP-UX 版 Java Enterprise System のアンインストールパッケージ
- Java Enterprise System コンポーネント用にインストールされる HP-UX パッケージ
- Java Enterprise System 共有コンポーネント用にインストールされる HP-UX パッケージ

HP-UX 版 Java Enterprise System のアンインストールパッケージ

次の表に、Sun Java Enterprise System のアンインストールパッケージを示します。

表 11 HP-UX 版 Java Enterprise System のアンインストールパッケージ

コンポーネント	パッケージ
アンインストールプログラム	sun-entsys-uninstall sun-entsys-uninstall-110n

コンポーネント用にインストールされる HP-UX 版の Java Enterprise System パッケージ

この節では、Sun Java Enterprise System コンポーネントごとにインストールされる HP-UX 版の Java Enterprise System パッケージを示します。

Access Manager HP-UX パッケージ

表 12 Access Manager パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Access Manager	sun-commcli-comic sun-commcli-comis sun-identity-external sun-identity-sfodb sun-identity-utils sun-identity-clientsdk
管理コンソール	sun-identity-console sun-identity-console-sdk sun-identity-password sun-identity-sci
Mobile Access	sun-identity-mobileaccess sun-identity-mobileaccess-config
アイデンティティ管理およびポリシーサービスコア	sun-identity-services sun-identity-services-config sun-identity-distauth
連携管理の共有ドメインサービス	sun-identity-federation
Access Manager SDK	sun-identity-samples sun-identity-sdk sun-identity-sdk-config

表 12 Access Manager パッケージ (HP-UX 用) (続き)

コンポーネント	パッケージ
ロケールパッケージ	sun-identity-sdk-de sun-identity-sdk-es sun-identity-sdk-fr sun-identity-sdk-ja sun-identity-sdk-ko sun-identity-sdk-zh_CN sun-identity-sdk-zh_TW sun-identity-mobileaccess-de sun-identity-mobileaccess-fr sun-identity-mobileaccess-es sun-identity-mobileaccess-ja sun-identity-mobileaccess-ko sun-identity-mobileaccess-zh_CN sun-identity-mobileaccess-zh_TW

管理サーバー HP-UX パッケージ

表 13 管理サーバーパッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
管理サーバー	sun-adminsvr-asvc sun-adminsvr-asvcp sun-adminsvr-asvr sun-adminsvr-asvu sun-adminsvr-asvmn
ロケールパッケージ	sun-admin-server-de sun-admin-server-es sun-admin-server-fr sun-admin-server-ja sun-admin-server-ko sun-admin-server-zh_CN sun-admin-server-zh_TW sun-server-console-de sun-server-console-es sun-server-console-fr sun-server-console-ja sun-server-console-ko sun-server-console-zh_CN sun-server-console-zh_TW

Application Server HP-UX パッケージ

表 14 Application Server パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Application Server (Enterprise Edition および Standard Edition)	sun-asJdbcDrivers sun-asac sun-asacee sun-ascml sun-ascmn sun-ascmnse sun-asdem sun-asdemdb sun-ashdm sun-asjdoc sun-aslb sun-asman sun-asmanee sun-asu sun-asuee sun-asut sun-aswbc
PointBase Server	sun-asdb

表 14 Application Server パッケージ (HP-UX 用) (続き)

コンポーネント	パッケージ
ロケールパッケージ	sun-asacee-de sun-ascmnse-de sun-asu-de sun-asuee-de sun-asacee-es sun-ascmnse-es sun-asu-es sun-asuee-es sun-asacee-fr sun-ascmnse-fr sun-asu-fr sun-asuee-fr sun-asacee-ja sun-ascmnse-ja sun-asu-ja sun-asuee-ja sun-asacee-ko sun-ascmnse-ko sun-asu-ko sun-asuee-ko sun-asacee-zh_CN sun-ascmnse-zh_CN sun-asu-zh_CN sun-asuee-zh_CN sun-asacee-zh_TW sun-ascmnse-zh_TW sun-asu-zh_TW sun-asuee-zh_TW

Calendar Server HP-UX パッケージ

表 15 Calendar Server パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Calendar Server	sun-calendar-api sun-calendar-core

表 15 Calendar Server パッケージ (HP-UX 用) (続き)

コンポーネント	パッケージ
ロケールパッケージ	sun-calendar-core-de sun-calendar-core-ko sun-calendar-core-es sun-calendar-core-zh_CN sun-calendar-core-fr sun-calendar-core-zh_TW sun-calendar-core-ja

Communications Express HP-UX パッケージ

表 16 Communications Express パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Communications Express	sun-uwc
ロケールパッケージ	sun-uwc-de sun-uwc-es sun-uwc-fr sun-uwc-ja sun-uwc-ko sun-uwc-zh_CN sun-uwc-zh_TW

Directory Server HP-UX パッケージ

表 17 Directory Server パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Directory Server	sun-dirsrv-dsvpl sun-dirsrv-dsvcp sun-dirsrv-dsvr sun-dirsrv-dsvu sun-dirsrv-dsvmn sun-dirsrv-dsvx

表 17 Directory Server パッケージ (HP-UX 用) (続き)

コンポーネント	パッケージ
ロケールパッケージ	sun-directory-server-de sun-directory-server-es sun-directory-server-fr sun-directory-server-ja sun-directory-server-ko sun-directory-server-zh_CN sun-directory-server-zh_TW

Directory Proxy Server HP-UX パッケージ

表 18 Directory Proxy Server パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Directory Proxy Server	sun-directory-proxy-server
ロケールパッケージ	sun-directory-proxy-server-de sun-directory-proxy-server-es sun-directory-proxy-server-fr sun-directory-proxy-server-ja sun-directory-proxy-server-ko sun-directory-proxy-server-zh_CN sun-directory-proxy-server-zh_TW

Instant Messaging HP-UX パッケージ

表 19 Instant Messaging パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Instant Messaging Server コア	sun-im-apidoc sun-im-install sun-im-mux sun-im-server
Instant Messaging リソース	sun-im-client sun-im-olh
Access Manager Instant Messaging Service	sun-im-ident

表 19 Instant Messaging パッケージ (HP-UX 用) (続き)

コンポーネント	パッケージ
ロケールパッケージ	sun-im-client-de sun-im-ident-ja sun-im-install-zh_TW sun-im-client-es sun-im-ident-ko sun-im-olh-de sun-im-client-fr sun-im-ident-zh_CN sun-im-olh-es sun-im-client-ja sun-im-ident-zh_TW sun-im-olh-fr sun-im-client-ko sun-im-install-de sun-im-olh-ja sun-im-client-zh_CN sun-im-install-es sun-im-olh-ko sun-im-client-zh_TW sun-im-install-fr sun-im-olh-zh_CN sun-im-ident-de sun-im-install-ja sun-im-olh-zh_TW sun-im-ident-es sun-im-install-ko sun-im-ident-fr sun-im-install-zh_CN

Message Queue HP-UX パッケージ

表 20 Message Queue パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Message Queue Enterprise Edition	sun-mq sun-mq-config sun-mq-var sun-mq-ent sun-mq-jaxm sun-mq-capi sun-mq-jmsclient sun-mq-xmlclient

表 20 Message Queue パッケージ (HP-UX 用) (続き)

コンポーネント	パッケージ
ロケールパッケージ	sun-mq-de sun-mq-es sun-mq-fr sun-mq-ko sun-mq-ja sun-mq-zh_CN sun-mq-zh_TW

Messaging Server HP-UX パッケージ

表 21 Messaging Server パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Messaging Server	sun-messaging-install sun-messaging-mmp sun-messaging-imta sun-messaging-sieveui sun-messaging-webmail sun-messaging-msg sun-messaging-msg_en sun-messaging-msglib sun-messaging-msma
ロケールパッケージ	sun-messaging-l10n-de sun-messaging-l10n-es sun-messaging-l10n-fr sun-messaging-l10n-ja sun-messaging-l10n-ko sun-messaging-l10n-zh_CN sun-messaging-l10n-zh_TW

Portal Server HP-UX パッケージ

表 22 Portal Server パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Portal Server	sun-portal-abchannel sun-portal-calendarapi sun-portal-configurator sun-portal-container sun-portal-core sun-portal-desktop sun-portal-desktopadmin sun-portal-desktopapi sun-portal-desktopdatamgmt sun-portal-desktopextension sun-portal-desktopserviceconfig sun-portal-discussions sun-portal-instantmessaging sun-portal-jchdt sun-portal-jcifs sun-portal-jsptaglib sun-portal-kssl sun-portal-l10n-configurator sun-portal-mail sun-portal-migration sun-portal-mobileaccess sun-portal-mobileaccess-doc sun-portal-mobileaccess-identity sun-portal-mobileaccessstatic sun-portal-netmail sun-portal-onlinehelp sun-portal-portlet sun-portal-portletsample sun-portal-portlettck sun-portal-proxylet sun-portal-proxylet-config sun-portal-rewriter sun-portal-rewriteradmin sun-portal-rhino sun-portal-sample sun-portal-sdk sun-portal-searchadmin sun-portal-searchserver sun-portal-searchui sun-portal-ssoadapter sun-portal-ssoadapteradmin sun-portal-subscriptions sun-portal-webnfs

表 22 Portal Server パッケージ (HP-UX 用) (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-portal-wsrpcommon sun-portal-wsrpconsumer sun-portal-wsrpconsumerconfig sun-portal-wsrpconsumersample sun-portal-wsrpproducer sun-portal-wsrpproducersample
ローケルパッケージ	sun-identity-mobileaccess-core-de sun-mobileaccess-core-de sun-portal-config-de sun-portal-core-de sun-portal-identity-de sun-portal-sra-config-de sun-portal-sra-core-de sun-portal-sra-gateway-core-de sun-portal-sra-identity-de sun-portal-sra-netlet-core-de sun-identity-mobileaccess-core-es sun-mobileaccess-core-es sun-portal-config-es sun-portal-core-es sun-portal-identity-es sun-portal-sra-config-es sun-portal-sra-core-es sun-portal-sra-gateway-core-es sun-portal-sra-identity-es sun-portal-sra-netlet-core-es sun-identity-mobileaccess-core-fr sun-mobileaccess-core-fr sun-portal-config-fr sun-portal-core-fr sun-portal-identity-fr sun-portal-sra-config-fr sun-portal-sra-core-fr sun-portal-sra-gateway-core-fr sun-portal-sra-identity-fr sun-portal-sra-netlet-core-fr

表 22 Portal Server パッケージ (HP-UX 用) (続き)

コンポーネント	パッケージ
	sun-identity-mobileaccess-core-ja
	sun-mobileaccess-core-ja
	sun-portal-config-ja
	sun-portal-core-ja
	sun-portal-identity-ja
	sun-portal-sra-config-ja
	sun-portal-sra-core-ja
	sun-portal-sra-gateway-core-ja
	sun-portal-sra-identity-ja
	sun-portal-sra-netlet-core-ja
	sun-identity-mobileaccess-core-ko
	sun-mobileaccess-core-ko
	sun-portal-config-ko
	sun-portal-core-ko
	sun-portal-identity-ko
	sun-portal-sra-config-ko
	sun-portal-sra-core-ko
	sun-portal-sra-gateway-core-ko
	sun-portal-sra-identity-ko
	sun-portal-sra-netlet-core-ko
	sun-identity-mobileaccess-core-zh_CN
	sun-mobileaccess-core-zh_CN
	sun-portal-config-zh_CN
	sun-portal-core-zh_CN
	sun-portal-identity-zh_CN
	sun-portal-sra-config-zh_CN
	sun-portal-sra-core-zh_CN
	sun-portal-sra-gateway-core-zh_CN
	sun-portal-sra-identity-zh_CN
	sun-portal-sra-netlet-core-zh_CN
	sun-identity-mobileaccess-core-zh_TW
	sun-mobileaccess-core-zh_TW
	sun-portal-config-zh_TW
	sun-portal-core-zh_TW
	sun-portal-identity-zh_TW
	sun-portal-sra-config-zh_TW
	sun-portal-sra-core-zh_TW
	sun-portal-sra-gateway-core-zh_TW
	sun-portal-sra-identity-zh_TW
	sun-portal-sra-netlet-core-zh_TW

表 23 Portal Server SRA パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Portal Server SRA コア	sun-portal-gateway-dsame sun-portal-sra-netfile sun-portal-kssl sun-portal-sra-netlet sun-portal-proxylet sun-portal-proxylet-config sun-portal-sra-sample sun-portal-sra-cluster sun-portal-sra-datamigration
ゲートウェイ	sun-portal-gateway-core sun-portal-gateway-admin
Netlet プロキシ	sun-portal-sra-netletproxy
Rewriter プロキシ	sun-portal-sra-rewriterproxy

Web Server HP-UX パッケージ

表 24 Web Server パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Web Server	sun-webserver
ロケールパッケージ	sun-webserver-de sun-webserver-es sun-webserver-fr sun-webserver-ko sun-webserver-ja sun-webserver-zh_CN sun-webserver-zh_TW

Web Proxy Server HP-UX パッケージ

表 25 Web Proxy Server パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Web Proxy Server	sun-proxyserver

Service Registry HP-UX パッケージ

表 26 Service Registry パッケージ (HP-UX 用)

コンポーネント	パッケージ
Service Registry	sun-soar-sdk sun-soar-server

共有コンポーネント用にインストールされる HP-UX 版の Java Enterprise System パッケージ

次の表に、共有コンポーネントごとに配布される HP-UX パッケージの名前を示します。

表 27 HP-UX 版 Java Enterprise System の共有コンポーネントパッケージ

コンポーネント	パッケージ
Ant	sun-ant
Apache Common Logging	sun-aclg
Apache SOAP ランタイム	sun-saaj
Common Agent Container	sun-cacao sun-cacao-config sun-cacao-man
Derby	sun-derby-core sun-derby-javadoc
Web サービスコンポーネントの共通ライブラリ	sun-wscl
ICU (International Components for Unicode)	sun-icu
ICUX (International Components for Unicode for 64-bit OS)	sun-icux
JATO (Java Activation Framework)	sun-jato sun-jatodmo sun-jatodoc
JavaHelp ランタイム	sun-javahelpruntime
Java Mail ランタイム	sun-javamail
JAXB	sun-jaxb
JAXP (Java API for XML Processing)	sun-jaxp
JAXR ランタイム	sun-jaxr
JAX-RPC ランタイム	sun-jaxrpc
JCAPI (Java Calendar API)	sun-jcapi

表 27 HP-UX 版 Java Enterprise System の共有コンポーネントパッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
JDK (Java Dynamic Management Kit) ランタイムライブラリ	sun-jdk-runtime sun-jdk-runtime-jmx
JSS (Java Security Services)	sun-jss
KTSE (KTSerch Engine)	sun-ktsearch
LDAP C Language SDK	sun-ldapcsdk
LDAP C Language SDK for 64-bit OS	sun-ldapcsdkx
LDAP Java SDK	sun-ljdk
Monitoring Framework	sun-mfwk-agent sun-mfwk-cfg sun-mfwk-dev
NSPR (Netscape Portable Runtime)	sun-nspr sun-nspr-devel
NSPRX (Netscape Portable Runtime for 64-bit OS)	sun-nsprx
NSS (Netscape Security Services)	sun-nss
NSSX (Netscape Security Services for 64-bit OS)	sun-nssx
NSSD 3.9.5 (Network Security Services Development)	sun-nss-devel
NSST 3.9.5 (Network Security Services Tools)	sun-nssu
SASL (Simple Authentication Security Layer)	sun-sasl
SASLX (Simple Authentication Security Layer for 64-bit OS)	sun-saslx
Sun Java Web Console	sun-mcon sun-mconr sun-mcos sun-mcosx sun-mctag
Sun ONE Application Framework	sun-jaf
Tomcat Servlet JSP Container	sun-tcatu
Zip 圧縮ライブラリ	sun-zlib
Berkeley DB Version Java Package (バンドル版) HP-UX	sun-berkeleydatabase-java
Berkeley DB Version Base Package (バンドル版) HP-UX	sun-berkeleydatabase
Sun Java™ Enterprise System HA Database 用 JDBC クライアントソフトウェア (タイプ 4 ドライバ)	sun-hadb-j
Sun Java™ Enterprise System HA Database 用管理クライアント	sun-hadb-m

表 27 HP-UX 版 Java Enterprise System の共有コンポーネントパッケージ (続き)

コンポーネント	パッケージ
Sun Java™ Enterprise System HA Database 用管理共通クライアント	sun-hadb-x
Unicode 開発者ファイルの国際コンポーネント	sun-icud
Network Security Services for Java (JSS) (64-bit)	sun-jssx
Java ES 監視フレームワークマニュアルページ	sun-mfwk-man
Netscape Portable Runtime Development (64-bit)	sun-nspr-develx
Network Security Services Development (64-bit)	sun-nss-develx

インストール後の設定

Sun Java™ Enterprise System インストーラによるインストールの終了後、Sun Java Enterprise System 環境を動作させる前に、ほとんどのコンポーネントに対して追加の設定を行う必要があります。この作業の範囲は、選択した設定タイプ(「今すぐ設定」または「あとで設定」)と、使用するコンポーネントを Sun Cluster ソフトウェアで設定するかどうかによって異なります。

この節では、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』

(<http://docs.sun.com/doc/819-3313?l=ja>)と同様に、HP-UX と Solaris における次の相違点を説明します。

- [インストール済みパッケージ](#)
- [MANPATH の設定](#)
- 「今すぐ設定」オプション: 手順
- 「あとで設定」オプション: 手順

インストール済みパッケージ

この章の説明に従う前に、Sun Java Enterprise System コンポーネントのインストールを完了しておく必要があります。swlist コマンドを使用すると、これらのコンポーネントパッケージがインストールされていることを確認できます。コンポーネントに関連するパッケージのリストについては、「[インストール可能なパッケージ](#)」を参照してください。

MANPATH の設定

使用するコンポーネントにマニュアルページがある場合は、MANPATH 環境変数が正しく設定されていることを確認する必要があります。インストール後、Sun Java Enterprise System コンポーネントのマニュアルページはデフォルトのディレクトリに配置されています。場合によっては、コンポーネントのマニュアルページの正しい場所が MANPATH 環境変数に設定されていることもあります。マニュアルページの場所が示されている場合は、特に操作をする必要はありません。マニュアルページの場所が示されていない場合は、MANPATH 環境変数に場所を追加する必要があります。

次の表に、Sun Java Enterprise System コンポーネントのマニュアルページのデフォルトの場所を示します。一覧に示されていないコンポーネントには、マニュアルページはありません。

表 28 マニュアルページのデフォルトの場所

コンポーネント	マニュアルページの場所
管理サーバー	/opt/sun/man
Application Server	/opt/sun/appserver/man/share/man
Common Agent Container	/opt/sun/man
Directory Server	/opt/sun/man

▶ MANPATH 変数を更新するには

次の例は、マニュアルページが C シェルで使用可能であることを確認する方法を示しています。

1. コマンド行で次のコマンドを使用して、MANPATH 環境変数に正しいパスが設定されているかどうかをチェックします。

```
env
```

2. 正しいパスが設定されていない場合は、Sun Java Enterprise System コンポーネントのマニュアルページの場所を MANPATH 環境変数に追加します。

```
/etc/MANPATH ファイルに必要な MANPATH で更新します。たとえば、次の行を  
/etc/MANPATH ファイルに追加します。
```

```
/opt/sun/man
```

パスに関わらず、新しいマニュアルページにすべてアクセスできるようになります。

3. マニュアルページにアクセスできることを確認します。たとえば、次のコマンドでは Application Server の asadmin マニュアルページが表示されます。

```
man asadmin
```

「今すぐ設定」オプション：手順

インストール時に「今すぐ設定」オプションを選択した場合、インストールセッションの実行時にすでに設定値を指定するように求められています。インストール時に設定されたコンポーネントの中には、この節で説明するような追加の設定を行う必要があるコンポーネントもあります。次のように入力すると、インストール時に設定された値を記述するサマリーレポートを参照できます。

```
/var/opt/sun/install/logs
```

以降の節で、特定の Sun Java Enterprise System コンポーネントに必要な設定の詳細を説明します。使用するコンポーネントが「今すぐ設定」によるインストール後の追加設定を必要としない場合は、**コンポーネントの起動と停止**に進み、設定を確認してください。

次の各節で、「今すぐ設定」オプションを指定した場合のインストール後の設定について説明します。

- 「今すぐ設定」によるインストール後の **Access Manager** の設定
- 「今すぐ設定」によるインストール後の **Message Queue** の設定
- 「今すぐ設定」によるインストール後の **Portal Server** の設定

「今すぐ設定」によるインストール後の Access Manager の設定

Sun Java Enterprise System インストーラの実行後すぐに Sun Java System Access Manager を起動し、Access Manager コンソールにログインすることができますが、最後の設定手順を完了しないと基本的なユーザー管理操作を行うことはできません。これらの手順は、すでにユーザーデータが供給されている Sun Java System Directory Server インスタンスを Access Manager が使用しているかどうかによって異なります。

次の各節では、次の場合に何をすべきかを説明します。

- **Directory Server** にユーザーデータが供給されている場合
- **Directory Server** にユーザーデータが供給されていない場合

Directory Server にユーザーデータが供給されている場合：すでに Directory Server にユーザーデータが供給されている場合は、『Sun Java System Access Manager Migration Guide』（<http://docs.sun.com/doc/817-5708>）の「Configuring Access Manager with a Provisioned Directory Server」に記載されている最後の設定手順を参照してください。

Directory Server にユーザーデータが供給されていない場合：Directory Server にユーザーデータが供給されていない場合は、次の節で説明されている手順に従ってください。

- **参照整合性プラグインの有効化**
- **Access Manager インデックスの追加**

警告 この節の手順を実行する前に、Directory Server が設定済みで実行中であることを確認してください。

参照整合性プラグインの有効化：参照整合性プラグインを有効にすると、削除や名前の変更が行われた直後に指定した属性について整合性の更新が実行されます。これによって、関連付けられたエントリ間の関係がデータベース全体を通じて保持されます。

▶ **参照整合性プラグインを有効にするには**

1. Directory Server コンソールで「設定」をクリックします。
2. ナビゲーションツリーで、「プラグイン」をダブルクリックして展開します。
3. 「プラグイン」リストで、「Referential Integrity Postoperation」をクリックします。
4. プロパティの領域で、「プラグインを有効に」ボックスをオンにします。
5. 「保存」をクリックします。
6. Directory Server を再起動して、プラグインを有効にします。

Access Manager インデックスの追加：データベースのインデックスを使用すると、Directory Server の検索性能が向上します。

▶ **Access Manager インデックスを追加するには**

1. Directory Server コンソールで「設定」をクリックします。
2. nsroledn インデックスを追加します。
 - a. ナビゲーションツリーで、データアイコンをクリックし、Access Manager で使用するディレクトリのエントリを含むルートサフィックスをクリックします。
 - b. 「インデックス」タブをクリックします。
 - c. 「追加インデックス」の下で、nsroledn 属性について「等価」、「実在」、および「部分文字列」チェックボックスをオンにします。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成に成功したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
3. memberof インデックスを追加します。
 - a. 「インデックス」タブで、「属性の追加」をクリックします。
 - b. 「属性の選択」ウィンドウで memberof 属性を選択し、「了解」をクリックします。
 - c. 「インデックス」タブで、memberof 属性について「等価」および「実在」チェックボックスをオンにします。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成に成功したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
4. ipplanet-am-static-group インデックスを追加します。

- a. 「インデックス」タブで、「属性の追加」をクリックします。
 - b. 「属性の選択」ウィンドウで `iplanet-am-static-group` 属性を選択し、「了解」をクリックします。
 - c. 「インデックス」タブで、`iplanet-am-static-group` 属性について「等価」チェックボックスをオンにします。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成に成功したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
5. `iplanet-am-modifiable-by` インデックスを追加します。
- a. 「インデックス」タブで、「属性の追加」をクリックします。
 - b. 「属性の選択」ウィンドウで `iplanet-am-modifiable-by` 属性を選択し、「了解」をクリックします。
 - c. 「インデックス」タブで、`iplanet-am-modifiable-by` 属性について「等価」チェックボックスをオンにします。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成に成功したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
6. `iplanet-am-user-federation-info-key` インデックスを追加します。
- a. 「インデックス」タブで、「属性の追加」をクリックします。
 - b. 「属性の選択」ウィンドウで `iplanet-am-user-federation-info-key` 属性を選択し、「了解」をクリックします。
 - c. 「インデックス」タブで、`iplanet-am-user-federation-info-key` 属性について「等価」チェックボックスをオンにします。
 - d. 「保存」をクリックします。
 - e. インデックスの作成に成功したら、「インデックス」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
7. Directory Server を再起動します。

「今すぐ設定」によるインストール後の Message Queue の設定

Message Queue には追加の設定は不要です。ただし、共通のオプション設定作業として Message Queue の自動起動を設定することができます。この設定を行うには、スーパーユーザーとしてログインし、`/etc/opt/sun/mq` にある `imqbrokerd.conf` 設定ファイルのプロパティを編集します。編集対象のプロパティは次のとおりです。

- `AUTOSTART` では、`YES` または `NO` によってブート時にブローカを自動的に起動するかどうかを指定します。デフォルト値は `NO` です。

- ARGS では、コマンド行オプションと引数をブローカの起動コマンドに受け渡すかどうかを指定します。imqbrokerd コマンド行オプションの一覧と説明については、『Sun Java System Message Queue 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-3560?l=ja>)を参照してください。(例: `-name instanceName`)
- RESTART では、YES または NO によって異常終了時にブローカを自動起動するかどうかを指定します。デフォルト値は YES です。

Message Queue に関する追加設定については、『Sun Java System Message Queue 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-3560?l=ja>)を参照してください。たとえば、デフォルトの管理パスワードを変更することもできます。

「今すぐ設定」によるインストール後の Portal Server の設定

Portal Server に関する最後の設定手順は、Portal Server が配備される Sun Web コンテナによって異なります。

Portal Server の Web コンテナとして Application Server または Web Server を使用している場合は、変更をインスタンスに適用する必要があります。『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4610?l=ja>)の第2章「インストール後の設定」の手順に従ってください。

「あとで設定」オプション：手順

インストール時に「あとで設定」オプションを選択した場合、Sun Java Enterprise System インストーラはコンポーネントパッケージファイルをそれぞれ該当のディレクトリに配置しています。まだパラメータが設定されていません。また、ランタイムサービスが利用可能になっていないので、ほとんどのコンポーネントが動作しません。

多くのコンポーネントには、「あとで設定」によるインストールを完了させるための設定ツールが含まれます。設定ツールの実行後は、このガイドや各コンポーネントの製品マニュアルの指示に従って追加の変更を行うことができます。

次の各節で、「あとで設定」オプションを指定した場合のインストール後の設定について説明します。

- 「あとで設定」によるインストール後の Access Manager の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Application Server の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Calendar Server の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Communications Express の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Directory Server の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Directory Proxy Server の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Instant Messaging の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Message Queue の設定

- 「あとで設定」によるインストール後の Messaging Server の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Portal Server の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Web Server の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Web Proxy Server の設定
- 「あとで設定」によるインストール後の Service Registry の設定

「あとで設定」によるインストール後の Access Manager の設定

「あとで設定」によるインストールの実行後は、パッケージがインストール済みであり、Access Manager 設定スクリプト `identity_svr_base/bin/amconfig` を使用して Access Manager を設定する準備が整っています。このプログラムの使用方法については、『Sun Java System Access Manager 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3481?l=ja>) を参照してください。

「あとで設定」によるインストール後の管理サーバーの設定

「あとで設定」によるインストールの実行後は、パッケージがインストール済みであり、管理サーバーの設定を開始する準備が整っています。

注 管理サーバーを設定する前に、Directory Server を設定する必要があります。

➤ 「あとで設定」によるインストール後に管理サーバーを設定するには

1. 設定ユーティリティを起動します。次に例を示します。

```
/opt/sun/sbin/mpsadmserver configure
```

画面に表示される指示に従います。

2. インストールされているサーバー以外のすべてのユーザーアカウントによるアクセスを防ぐように、<サーバールート>/alias の下にあるファイルに対するアクセス権が設定されていることを確認します。
3. 共通のサーバー設定と管理サーバーの設定を確認します。

必要に応じて設定を更新します。これらの設定については、『Sun Java System Administration Server Administration Guide』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-7612>) を参照してください。

注 管理サーバーが Access Manager とともにインストールされている場合、手順 3 のほとんどの設定はインストール時に完了しています。

「あとで設定」によるインストール後の Application Server の設定

「あとで設定」によるインストールの実行後は、パッケージがインストール済みであり、Application Server の設定を開始する準備が整っています。

▶ 「あとで設定」によるインストール後に Application Server を設定するには

1. application_svr_base/bin を PATH 環境変数に追加します。
2. PATH 環境変数が機能していることを確認します。次に例を示します。

```
asadmin help
```

asadmin コマンドのヘルプが表示されます。

「あとで設定」によるインストール後の Calendar Server の設定

Calendar Server を Sun Java Enterprise System インストーラで設定することはできません。

▶ 「あとで設定」によるインストール後に Calendar Server を設定するには

1. Directory Preparation Script (comm_dssetup.pl) を実行して、Directory Server を通信サービス (Calendar Server、Messaging Server、および Delegated Administrator ユーティリティー) について設定します。

注 別の通信コンポーネントの設定中に同じ Directory Server で Directory Preparation Script を実行済みの場合は、この手順を省略できます。

- a. Directory Server が実行中であることを確認します。
 - b. Directory Server がインストールされているマシンで、次のように Directory Preparation Script を実行します。


```
perl /opt/sun/comms/dssetup/sbin/comm_dssetup.pl
```
 - c. スクリプトによって入力が必要になったら、以前のバージョンの Calendar Server、Messaging Server、またはカスタムアプリケーションとの互換性を保持する必要がある限り、スキーマタイプとして「Schema 2 Native Mode」を選択します。適切な選択を行うためには、『Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4103?l=ja>) の第 2 章「インストールおよび設定の計画」を参照してください。
2. /etc/hosts ファイルの 2 番目の列に単純なホスト名ではなく完全修飾ドメイン名 (FQDN) が指定されていることを確認します。次に例を示します。

```
192.18.99.999 mycomputer.company.com loghost
```

3. Delegated Administrator を使用して Calendar Server のユーザーを供給する場合は、Delegated Administrator の設定で追加の手順を実行する必要があります。このユーティリティの設定方法とユーザーの供給方法については、『Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4103?l=ja>) を参照してください。

警告

インストールに Access Manager と LDAP スキーマ 2 が含まれ、しかも別の通信コンポーネントの設定時にこの手順を実行していない場合にのみ、この手順を実行してください。

4. Calendar Server 設定プログラム (`cal_svr_base/calendar/sbin/csconfigurator.sh`) を実行して、Calendar Server を設定します。

Calendar Server の設定については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3568?l=ja>) を参照してください。

「あとで設定」によるインストール後の *Communications Express* の設定

Communications Express を Sun Java Enterprise System インストーラで設定することはできません。

▶ 「あとで設定」によるインストール後に *Communications Express* を設定するには

1. Directory Preparation Script (`comm_dssetup.pl`) を実行して、Communications Express を通信サービス (Calendar Server、Messaging Server、および Delegated Administrator ユーティリティ) について設定します。

注 別の通信コンポーネントの設定中に同じ Directory Server で Directory Preparation Script を実行済みの場合は、この手順を省略できます。

- a. Directory Server が実行中であることを確認します。
 - b. Directory Server がインストールされているマシンで、次のように Directory Preparation Script を実行します。

```
perl /opt/sun/comms/dssetup/sbin/comm_dssetup.pl
```
 - c. スクリプトによって入力が必要になったら、スキーマタイプとして「Schema 2 Native Mode」を選択します。
2. Communication Express 設定プログラム `uwc_base/sbin/config-uwc` を使用して設定を完了します。その方法については、『Sun Java System Communications Express 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3544?l=ja>) の第 2 章「Communications Express のインストールおよび設定」を参照してください。

「あとで設定」によるインストール後の Directory Server の設定

「あとで設定」によるインストールの実行後は、パッケージがインストール済みであり、Directory Server の設定作業を実行する準備が整っています。

▶ 「あとで設定」によるインストール後に Directory Server を設定するには

1. 設定ユーティリティを起動します。次に例を示します。

```
/opt/sun/sbin/directoryserver -u 5.2 configure
```

画面に表示される指示に従います。

2. (オプション) Perl で記述された多くのコマンド行スクリプトはバインドパスワードを対話的に読み取ることができます (-w オプション)。この機能を有効にするには、次の手順に従います。
 - a. Term::ReadKey Perl モジュールをインストールします。このモジュールは CPAN (<http://cpan.org>) から単独で入手できます。
 - b. 各 Perl スクリプトを編集して、バインドパスワードを対話的に読み取れるようにします。これは該当する行のコメントを外すことで行います。

そのほかすべての Perl スクリプトの機能は、Term::ReadKey モジュールなしで使用できます。
3. 共通のサーバー設定と Directory Server の設定を確認します。

必要に応じて設定を更新します。

「あとで設定」によるインストール後の Directory Proxy Server の設定

「あとで設定」によるインストールの実行後は、パッケージがインストール済みであり、Directory Proxy Server の設定作業を実行する準備が整っています。

▶ 「あとで設定」によるインストール後に Directory Proxy Server を設定するには

1. quickstart.tcl スクリプトを使用して、Directory Proxy Server インスタンスを設定します。次に例を示します。

```
# /opt/sun/directory-proxy-server/5.2/bin/tcl8.2/tclsh
/opt/sun/directory-proxy-server/5.2/bin/dps/install/script/quickstart.tcl -cid
<cid_path> -serverroot <serverroot_path> -listen <DPS port number> -password
<password> -userID <admin user id>
```

quickstart.tcl スクリプトの引数を次の表に示します。

表 29 quickstart.tcl スクリプトの引数

引数	説明
-cid	完全修飾パスを指定します。スクリプトは次のディレクトリが存在することを確認します。 <code>cid_path/bin/dps/install/script</code>
-serverroot	インストール済みおよび設定済みの管理サーバーへの完全修飾パスです。スクリプトは次のファイルが存在することを確認します。 <code>serverroot_path/admin-serv/config/adm.conf</code> <code>serverroot_path/admin-serv/config/jvm12.conf</code>
-listen	Directory Proxy Server のポートです。
-userID	管理サーバー管理者の識別名 (DN) です。
-password	管理サーバー管理者のパスワードです。

2. 共通のサーバー設定を確認します。
3. Directory Proxy Server の共通のサーバー設定を更新します。
4. Directory Proxy Server の設定を確認します。
5. Directory Proxy Server を起動します。

「あとで設定」によるインストール後の Instant Messaging の設定

Instant Messaging を Sun Java Enterprise System インストーラで設定することはできません。このサーバーをインストールすると、マルチプレクサもインストールされて有効になります。ホスト上でマルチプレクサだけをサポートする場合は、ホストにインストールされたサーバーを無効にする必要があります。その方法については、『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1487?l=ja>) を参照してください。

Instant Messaging 設定ユーティリティ `im_svr_base/configure` の使用方法については、『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1487?l=ja>) の第 1 章「インストール後の Instant Messenger の設定」を参照してください。

「あとで設定」によるインストール後の Message Queue の設定

Message Queue コンポーネントには追加の設定は不要です。ただし、共通のオプション設定作業として Message Queue の自動起動を設定することができます。設定方法については、「[「今すぐ設定」によるインストール後の Message Queue の設定](#)」を参照してください。

「あとで設定」によるインストール後の Messaging Server の設定

Messaging Server を Sun Java Enterprise System インストーラで設定することはできません。

▶ 「あとで設定」によるインストール後に Messaging Server を設定するには

1. `comm_dssetup.pl` スクリプトを実行して、Directory Server を通信サービス (Calendar Server、Messaging Server、および Delegated Administrator ユーティリティー) について設定します。

注 別の通信コンポーネントの設定中に同じ Directory Server で Directory Preparation Script を実行済みの場合は、この手順を省略できます。

- a. Directory Server が実行中であることを確認します。
- b. Directory Server がインストールされているマシンで、次のように Directory Preparation Script を実行します。

```
perl /opt/sun/comms/dssetup/sbin/comm_dssetup.pl
```
- c. スクリプトによって入力が必要になったら、以前のバージョンの Calendar Server、Messaging Server、またはカスタムアプリケーションとの互換性を保持する必要がない限り、スキーマタイプとして「Schema 2 Native Mode」を選択します。適切な選択を行うためには、『Sun Java System Communications Services 配備計画ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3543?l=ja>) の第 7 章「Messaging Server スキーマとプロビジョニングオプションの理解」を参照してください。

2. `/etc/hosts` ファイルの 2 番目の列に単純なホスト名ではなく完全修飾ドメイン名 (FQDN) が指定されていることを確認します。次に例を示します。

```
192.18.99.1   mycomputer.company.com   loghost
```

3. Delegated Administrator を使用して Messaging Server のユーザーを供給する場合は、Delegated Administrator の設定で追加の手順を実行する必要があります。このユーティリティーの設定方法とユーザーの供給方法については、『Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4103?l=ja>) を参照してください。

警告 インストールに Access Manager と LDAP スキーマ 2 が含まれ、しかも別の通信コンポーネントの設定時にこの手順を実行していない場合のみ、この手順を実行してください。

4. Messaging Server の初期実行時設定プログラム `msg_svr_base/sbin/configure` を実行して、Messaging Server を設定します。

Messaging Server の設定については、『Sun Java System Messaging Server 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3613?l=ja>) を参照してください。

「あとで設定」によるインストール後の Portal Server の設定

Portal Server に関する最後の設定手順は、Portal Server が配備される Sun Web コンテナによって異なります。

「あとで設定する」によるインストール後の Application Server 上または Web Server 上の Portal Server の設定

Portal Server は、すべての Portal Server サブコンポーネントと Portal Server Secure Remote Access の設定に使用できる共通の設定プログラムを提供します。

▶ 「あとで設定する」によるインストール後に Application Server 上または Web Server 上で Portal Server を設定するには

1. Portal Server 設定プログラム `portal_svr_base/lib/configurator` を実行して、Portal Server のランタイム設定を作成します。

設定プログラムの実行方法と設定プログラムが使用する設定の説明については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』 (<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4610?l=ja>) 第 2 章の「最小インストールの設定」の節を参照してください。
2. 変更をインスタンスに適用します。適用方法については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』 (<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4610?l=ja>) 第 2 章の「Portal Server インストール後の作業」の節を参照してください。

「あとで設定」によるインストール後の Web Server の設定

「あとで設定」によるインストールの実行後は、パッケージがインストール済みであり、Web Server の設定を行う準備が整っています。

▶ 「あとで設定」によるインストール後に Web Server を設定するには

1. Web Server 設定プログラム `web_svr_base/setup/configure` を実行して、Web Server を設定します。

この設定プログラムによって、管理サーバーとデフォルトインスタンスを含むランタイム設定が作成されます。
2. 共通のサーバー設定と Web Server の設定を確認します。

「あとで設定」によるインストール後の Web Proxy Server の設定

「あとで設定」によるインストールの実行後は、パッケージがインストール済みであり、Web Proxy Server の設定を行う準備が整っています。

▶ 「あとで設定」によるインストール後に Web Proxy Server を設定するには

1. Web Proxy Server 設定プログラムを実行して、Web Proxy Server を設定します。

```
web_proxy_svr_base/bin/proxy/bin/configureServer -f <propfile> -l <logfile>
```

この設定プログラムによって、管理サーバーとデフォルトインスタンスを含むランタイム設定が作成されます。

2. 共通のサーバー設定と Web Proxy Server の設定を確認します。

必要に応じて設定を更新します。これらの設定の詳細については、『Sun ONE Web Server Installation and Migration Guide』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0131>)を参照してください。

「あとで設定」によるインストール後の Service Registry の設定

Service Registry を Sun Java Enterprise System インストーラで設定することはできません。「あとで設定」によるインストールの実行後は、パッケージがインストール済みであり、Service Registry の設定を開始する準備が整っています。

▶ 「あとで設定」によるインストール後に Service Registry を設定するには

「あとで設定」によるインストールを開始する前に、root としてログインするか、スーパーユーザーとしてログインします

1. *ServiceRegistry-base/install* ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/sun/SUNWsoar/install
```

2. *install.properties* ファイルの変更可能なプロパティを編集します。セキュリティ上の理由で、パスワード値を変更するためにこのファイルを編集しないようにお勧めします。代わりに、コマンド行でパスワード値を指定してください。
3. *JAVA_HOME* 環境変数が設定されていることを確認します。

ant コマンドでは、*JAVA_HOME* 環境変数を設定する必要があります。

4. 下に示すように、*SHLIB_PATH* 変数をエクスポートします。

```
export SHLIB_PATH=$SHLIB_PATH:/opt/sun/private/lib
```

/opt/sun はデフォルトのインストールディレクトリです。

注

SHLIB_PATH のエクスポートは、商用リリースの回避策として行われます。詳細については、Service Registry のリリースノートを参照してください。

5. `install.properties` ファイルの編集後に、次のコマンドを実行します (全体で 1 行)。

```
/opt/sun/share/lib/ant/bin/ant -f build-install.xml install
```

変更したパスワードをコマンド行で指定するには、次のオプションをコマンド行に指定します (全体で 1 行)。

```
/opt/sun/share/lib/ant/bin/ant -f build-install.xml  
-Dregistry.install.RegistryServerKeystorePassword=passwd1  
-Dregistry.install.AdministratorPassword=passwd2-Dregistry.install.Applica  
tionServerKeystorePassword=passwd3 install
```

Registry 設定プロセスにより、Application Server ドメインが `RegistryDomain-base/domains/${registry.install.DomainName}` に作成されます。デフォルトのドメイン名は `registry` です。その後、設定プロセスにより、ドメインが起動され、Registry が配備され、ドメインは動作したままになります。

Registry 設定プロセスにより、Registry データベースとサーバーキーストアが `RegistryDomain-base/3.0` ディレクトリにインストールされます。このディレクトリは、将来のリリースで使用するためにデータベースを保持できるように、Registry をアンインストールしても削除されません。管理者は、このディレクトリを削除するかどうか、およびいつ削除するかを制御できます。

`RegistryDomain-base` の場所は `/var/opt/sun/SUNWsoar` です。

6. エラーについては、`ant install` コマンドの出力を確認してください。エラーがない場合は、Web コンソールまたは管理ツールの使用を開始できます。

コンポーネントの起動と停止

この章では、インストールおよび設定された Sun Java™ Enterprise System コンポーネントの起動方法と停止方法について説明します。この節の手順を使用して、コンポーネントが動作していることを確認できます。

この章は、次の各節で構成されています。

- [前提条件](#)
- [Access Manager の起動と停止](#)
- [管理サーバーの起動と停止](#)
- [Application Server の起動と停止](#)
- [Calendar Server の起動と停止](#)
- [Directory Server の起動と停止](#)
- [Directory Proxy Server の起動と停止](#)
- [Instant Messaging の起動と停止](#)

- [Message Queue](#) の起動
- [Messaging Server](#) の起動と停止
- [Portal Server](#) の起動と停止
- [Portal Server Secure Remote Access](#) の起動と停止
- [Web Server](#) の起動と停止
- [Web Proxy Server](#) の起動と停止
- [Service Registry](#) の起動と停止

前提条件

この章の手順を行う前に、「[インストールに関する問題のトラブルシューティング](#)」に示されているインストール後の設定作業をすべて完了してください。

Sun Java Enterprise System の起動順序

Sun Java Enterprise System を起動するには、決められた順序で各コンポーネントを起動していきます。Directory Server と Web コンテナ (Web Server またはアプリケーションサーバー) が提供する基本サービスを先に起動します。Sun Java Enterprise System は、インストール時にこれらのサービスの実行可能なインスタンスを作成します。Portal Server と Access Manager は Web コンテナ内で実行されるので、Web コンテナを起動するとこれらも起動されます。

次の表に、Sun Java Enterprise System のコンポーネントセット全体を起動するための一般的な順序を示します。左側の列に起動順序、中央の列にタスク、右側の列に各タスクの実行手順の参照先を示します。

表 30 Sun Java Enterprise System の推奨される起動順序

順序	タスク	実行手順の参照先
1	使用するディレクトリサーバーを起動します。	
	A. Directory Server を起動します。	61 ページの「 Directory Server を起動するには 」
	B. 管理サーバーを起動します。	56 ページの「 管理サーバーを起動するには 」
	C. サーバーコンソールを起動します。	57 ページの「 サーバーコンソールを起動するには 」

表 30 Sun Java Enterprise System の推奨される起動順序 (続き)

順序	タスク	実行手順の参照先
2	<p>選択した Web コンテナを起動します。Access Manager と Portal Server がインストールされている場合は、それらが起動されます。</p> <p>Application Server を起動します (Message Queue も起動される)。</p> <p>Web Server を起動します。</p>	<p>58 ページの「Application Server を起動するには」</p> <p>55 ページの「Application Server 上の Access Manager および Portal Server を確認するには」</p> <p>66 ページの「Web Server を起動するには」</p> <p>55 ページの「Web Server 上の Access Manager および Portal Server を確認するには」</p>
3	Portal Server Secure Remote Access を起動します。	65 ページの「Portal Server Secure Remote Access を起動するには」
4	Instant Messaging を起動します。	62 ページの「Instant Messaging を起動するには」
5	Messaging Server を起動します。	63 ページの「Messaging Server を起動するには」
6	Calendar Server を起動します。	59 ページの「Calendar Server を起動するには」
7	Directory Proxy Server を起動します。	61 ページの「Directory Proxy Server を起動するには」

Sun Java Enterprise System コンポーネントセット全体をシャットダウンするには、上記の逆の順序を行います。

ヒント ほとんどの場合、以降の節で取り上げる例はデフォルトの情報に基づいているので、インストールや使用するコンポーネントに指定した設定値を覚えていない場合は、例で示される値を試してください。

Access Manager の起動と停止

Access Manager は Directory Server と Web コンテナに依存します。Access Manager を確認するには、次のように Web コンテナ上の Access Manager の固有の配備設定にアクセスします。

この節では、次の各手順を説明します。

- 55 ページの「Access Manager を起動するには」
- 55 ページの「Application Server 上の Access Manager および Portal Server を確認するには」
- 55 ページの「Web Server 上の Access Manager および Portal Server を確認するには」
- 56 ページの「Access Manager を停止するには」

▶ Access Manager を起動するには

1. `identity_svr_base/bin` ディレクトリに移動します。
2. Access Manager プロセスを起動します。
`./amserver start`
3. Web コンテナインスタンスを起動します。
4. コマンドを使用して、Access Manager プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep /identity
```

```
/opt/sun/identity/share/bin/amunixd
```

▶ Application Server 上の Access Manager および Portal Server を確認するには

1. 次の URL を使用して、デフォルトページにアクセスします。

```
http://appserver-host:port/amconsole
```

Access Manager のログインページが表示されます。

2. ログインします。

Access Manager にログインできれば、Application Server 上に Access Manager が正しく配備されていることとなります。デフォルトの管理者アカウントは `amadmin` です。新しいブラウザウィンドウで、次の URL を使用してサンプルのデスクトップを表示します。

```
http://server:port/portal
```

サンプルのデスクトップが表示されれば、Application Server 上に Portal Server が正しく配備されていることとなります。

モバイルデバイスでは、次のように指定します。

```
http://server:port/portal/dt
```

▶ Web Server 上の Access Manager および Portal Server を確認するには

1. 次の URL を使用して、デフォルトページにアクセスします。

```
http://webserver-host:port/amconsole
```

Access Manager のログインページが表示されます。

2. ログインします。

Access Manager にログインできれば、Web Server 上に Access Manager が正しく配備されていることとなります。

3. 新しいブラウザウィンドウで、次の URL を使用してサンプルのデスクトップを表示します。

`http://server:port/portal`

サンプルのデスクトップが表示されれば、Web Server 上に Portal Server が正しく配備されていることとなります。

モバイルデバイスでは、次のように指定します。

`http://server:port/portal/dt`

▶ Access Manager を停止するには

1. Web コンテナインスタンスを停止します。
2. `identity_svr_base/bin` ディレクトリに移動します。
3. Access Manager プロセスを停止します。

```
./amserver stop
```

4. Access Manager プロセスが実行中でないことを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep /identity
```

管理サーバーの起動と停止

管理サーバーを確認するには、管理サーバーと Console Server を起動します。管理サーバーは Directory Server に依存します。

▶ 管理サーバーを起動するには

1. 次のように入力します。
2. 管理サーバープロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。

```
/opt/sun/mps/serverroot/start-admin
```

```
/usr/bin/ps -ef | grep admin-serv/config
```

```
./uxwdog -e -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config  
ns-httpd -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config  
ns-httpd -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config  
ns-httpd -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config  
ns-httpd -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config
```

▶ 管理サーバーを停止するには

1. 次のように入力します。

```
/opt/sun/mps/serverroot/stop-admin
```

2. 管理サーバーが実行中でないことを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep admin-serv/config
```

▶ サーバークンソールを起動するには

1. 必要に応じて、\$DISPLAY 変数を設定してマシン上に **Console Server** を表示します。
2. 管理サーバープロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep admin-serv/config
```

```
./uxwdog -e -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config
ns-httpd -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config
ns-httpd -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config
ns-httpd -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config
ns-httpd -d /opt/sun/mps/serverroot/admin-serv/config
```

3. 次のように入力します。

```
/opt/sun/mps/serverroot/startconsole
```

4. サーバークンソールプロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep console
```

▶ サーバークンソールを停止するには

1. サーバークンソールを停止するには、グラフィカルインタフェースを終了します。
2. **Console Server** が実行中でないことを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep console
```

Application Server の起動と停止

Application Server を確認するには、Application Server インスタンスを起動し、グラフィカル管理インタフェースを起動してログインする必要があります。Application Server は Message Queue に依存します。

▶ Application Server を起動するには

1. application_svr_base/bin に移動し、次のコマンドを入力します。

```
% asadmin start-domain --user admin-id --passwordfile <パスワードファイルの場所>/passwordfile-name --domain domain-name
```

パスワードファイルの内容は次の形式にする必要があります。

```
AS_ADMIN_PASSWORD=<パスワード>
```

または

```
% asadmin start-domain --user admin-id domain-name
```

パスワードを要求されたら入力します。

2. インストール時に設定した値を入力します。

サーバーが起動したことを通知する次のようなメッセージが表示されます。

```
Starting Domain domain1, please wait. Log redirected to install_dir...
```

起動プロセスが完了すると、さらに次のメッセージが表示されます。

```
Domain domain1 started
```

3. 個々の Application Server インスタンスを起動します。次に例を示します。

```
./asadmin start-domain domain1
```

注 起動に失敗したことを通知するメッセージが表示された場合は、設定の変更がまだ適用されていない可能性があります。この場合、asadmin reconfig コマンドを実行します。次に例を示します。

```
asadmin reconfig --user admin --password adminadmin --host localhost  
--port 4849 server
```

4. Application Server プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep appserv
```

```

root 9888  9886  0 12:55:46 pts/tc 0:00
/bin/sh/var/opt/sun/appserver/nodeagents/sqe-agent/sqe-server/
root 9886    1  0 12:55:38 pts/tc 0:11
/opt/sun/appserver/lib/appservAgent sqe-agent
root 9898  9890  0 12:55:53 pts/tc 0:31
/opt/sun/appserver/lib/appserv sqe-server
root 9890  9888  0 12:55:46 pts/tc 0:00
/opt/sun/appserver/lib/appservLauncher/opt/sun/appserver/lib/a
root 9869    1  0 12:54:28 pts/tc 1:03
/opt/sun/appserver/lib/appservDAS sqe-domain

```

▶ Application Server のグラフィカルインタフェースにアクセスするには

システムでサーバーが実行中であることを確認するには、ブラウザで次の形式の URL を指定します。https://localhost:port

現在ブラウザを実行しているシステムの名前で *localhost* 変数を置き換えます。Application Server ソフトウェアが別のシステムで実行中の場合は、そのシステムの名前を *localhost* に代入します。インストール時に割り当てられたドメイン管理サーバーのポート番号で *port* 変数を置き換えます。デフォルトのポート番号は 8080 です。インストール時にポート番号を変更した場合は、その番号を使用します。次に例を示します。

```
https://mycomputer.example.com:4849
```

ドメイン管理サーバーが実行中の場合は、Application Server の「ようこそ」ページが表示されます。

▶ Application Server を停止するには

1. application_svr_base/bin に移動します。
2. Application Server インスタンスを停止します。
./asadmin stop-domain domain1
3. Application Server が実行中でないことを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep appserv
```

Calendar Server の起動と停止

Calendar Server は Directory Server に依存します。

▶ Calendar Server を起動するには

1. /cal_svr_base/calendar/sbin に移動します。

2. Calendar Server を起動します。

```
./start-cal
```

3. Calendar Server プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep cal
```

```
/opt/sun/calendar/lib/cshttpd -d 3  
/opt/sun/calendar/lib/enpd -p 57997 -c config/ics.conf  
/opt/sun/calendar/lib/csadmin  
/opt/sun/calendar/lib/csnotifyd
```

▶ Calendar Server のグラフィカルインタフェースにアクセスするには

Calendar Server がポイントする LDAP ディレクトリに登録されているユーザーであれば、Calendar Server にログインすることができます。ブラウザで `http://hostname.domain[:port]` という形式を使用して、Calendar Server にアクセスします。次に例を示します。

```
http://mycomputer.example.com:8000
```

初期ログイン時に、Calendar Server はユーザー用にデフォルトのカレンダーを作成します。Calendar Server にログインできれば、正常にインストールされていることとなります。

▶ Calendar Server を停止するには

1. `cal_svr_base/calendar/sbin` に移動します。

2. Calendar Server を停止します。

```
./stop-cal
```

3. Calendar Server が実行中でないことを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep cal
```

通信サーバーの起動と停止

Communication Express は Web コンテナ (Web Server/Application Server) に依存します。これは、Calendar Server、Messaging Server、およびアドレス帳のための統合アプリケーションです。クライアントプログラムなので、起動や停止の対象ではありません。

▶ Communication Express のグラフィカルインタフェースにアクセスするには

1. `uwc_svr_base/uwc/sbin` に移動します。

2. Communication Express を設定します。

```
./config-uwc (Communication Express の管理マニュアルを参照)
```

3. Web Server を再起動して、配備を行います。
4. ブラウザで次の操作を行います。
`http://hostname.domain[:webport]/deployed-uri` の形式を使用して、UWC にアクセスします。
 次に例を示します。 `http://mycomputer.example.com:80/uwc`

Directory Server の起動と停止

Directory Server がクラスタの一部である場合は、論理ホストのアクティブノードで作業していることを確認します。Directory Server に依存関係はありません。

▶ Directory Server を起動するには

1. 次のいずれかのコマンドを使用して、Directory Server を起動します。
`/opt/sun/mps/serverroot/slapd-HOST-instance/start-slapd`
 上記で、`slapd-HOST-instance` は起動する必要のある DS インスタンスを表します。
2. Directory Server プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。
`/usr/bin/ps -ef | grep slapd`

```
./ns-slapd -D /opt/sun/mps/serverroot/slapd-host1 -i
/opt/sun/mps/serverroot/slapd-host1
```

▶ Directory Server を停止するには

1. 次のいずれかのコマンドを使用して、Directory Server を停止します。
`/opt/sun/mps/serverroot/slapd-HOST-instance/stop-slapd`
2. Directory Server が実行中でないことを確認します。次に例を示します。
`/usr/bin/ps -ef | grep slapd`

Directory Proxy Server の起動と停止

サーバーが 1024 よりも小さいポートで実行されている場合は `root` としてログインします。1024 よりも大きいポートの場合は、`root` またはサーバーの管理者アカウントとしてログインします。Directory Proxy Server は管理サーバーに依存します。

▶ Directory Proxy Server を起動するには

1. `<DPS Server root>/dps-instance-name` に移動します (通常、`instance-name` はマシン名)。たとえば、デフォルトでは次のとおりです。
`/opt/sun/mps/serverroot/dps-host1`

2. Directory Proxy Server プロセスを起動します。
`./start-dps`
3. Directory Proxy Server プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。
`/usr/bin/ps -ef | grep dps`

```
./ldapfwd -t /var/opt/mps/serverroot/dps-or03/etc/tailor.txt
```

▶ Directory Proxy Server を停止するには

1. <DPS Server root>/dps-instance-name に移動します。次に例を示します。
`/opt/sun/mps/serverroot/dps-host1`
2. Directory Proxy Server プロセスを停止します。
`./stop-dps`
3. Directory Proxy Server が実行中でないことを確認します。次に例を示します。
`/usr/bin/ps -ef | grep dps`

Instant Messaging の起動と停止

Instant Messaging は Directory Server および Web Server に依存します。

▶ Instant Messaging を起動するには

1. 次のいずれかの方法を使用します。
 - 次のコマンドを実行します。
`/sbin/init.d/iim.rc start`
 - imadmin コマンドを実行します。次に例を示します。
`inst_msg_base/sbin/imadmin start`
2. サーバーが実行中であるかどうかをチェックします。
`inst_msg_base/sbin/imadmin check`

```
./../lib/multiplexor -c ./../config/iim.conf  
...  
/opt/java1.4/bin/java -server -Xmx256m -cp  
./../classes/imserv.jar:./../classes/im
```

注 Instant Messaging クライアントは、さまざまな方法で起動できます。その方法については、『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1487?l=ja>)を参照してください。

▶ **Instant Messaging を停止するには**

1. 次のいずれかの方法を使用します。
 - 次のコマンドを実行します。
`/sbin/init.d/iim.rc stop`
 - imadmin コマンドを実行します。次に例を示します。
`inst_msg_base/sbin/imadmin stop`
2. Instant Messaging プロセスが実行中でないことを確認します。次に例を示します。
`inst_msg_base/sbin/imadmin check`

Message Queue の起動

▶ **Message Queue を起動するには**

1. mq_base/bin ディレクトリに移動します。
2. Message Queue ブローカを起動します。
`./imqbrokerd`
3. Message Queue プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。
`/usr/bin/ps -ef | grep imqbrokerd`

```
/bin/sh ./imqbrokerd
```

Messaging Server の起動と停止

Messaging Server は Directory Server および管理サーバーに依存します。

▶ **Messaging Server を起動するには**

1. msg_svr_base/sbin に移動します。
2. Messaging Server プロセスを起動します。
`./start-msg`

3. Messaging Server プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep messaging
```

```
/opt/sun/messaging/lib/enpd  
/opt/sun/messaging/lib/stored -d  
/opt/sun/messaging/lib/popd -d 5  
/opt/sun/messaging/lib/imapd -d 5 -D 6  
/opt/sun/messaging/lib/mshttpd -d 5 -D 6  
/opt/sun/messaging/lib/dispatcher  
/opt/sun/messaging/lib/job_controller  
/opt/sun/messaging/lib/tcp_lmtp_server  
/opt/sun/messaging/lib/tcp_smtp_server  
/opt/sun/messaging/lib/tcp_smtp_server  
/opt/sun/messaging/lib/imsched  
/opt/sun/messaging/lib/watcher
```

プロセスの一覧は、使用するように設定した Messaging Server の機能によって異なります。

▶ Messenger Express にアクセスするには

Messaging Server がポイントする LDAP ディレクトリに登録されているユーザーであれば、Messaging Server にログインすることができます。ブラウザで `http://hostname.domain[:port]` という形式を使用して、Messenger Express にアクセスします。

次に例を示します。

```
http://mycomputer.example.com:8080
```

▶ Messaging Server を停止するには

1. `msg_svr_base/sbin` に移動します。
2. Messaging Server プロセスを停止します。
`./stop-msg`
3. Messaging Server プロセスが実行中でないことを確認します。次に例を示します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep messaging
```

一部の Messaging Server プロセスは、現在のトランザクションが完了するまで待機します。したがって、停止するまでに数分かかる場合があります。

Portal Server の起動と停止

Portal Server の起動とシャットダウンの機構は、Web コンテナ (Web Server または Application Server) の起動とシャットダウンの機構の一部です。Portal Server は、Directory Server、Access Manager または Access Manager SDK、および Web コンテナに依存します。

Portal Server を確認するには、次の節を参照してください。

- 55 ページの「Application Server 上の Access Manager および Portal Server を確認するには」
- 55 ページの「Web Server 上の Access Manager および Portal Server を確認するには」

Portal Server Secure Remote Access の起動と停止

Portal Server Secure Remote Access は、Portal Server と Access Manager または Access Manager SDK に依存します。

▶ Portal Server Secure Remote Access を起動するには

1. ゲートウェイをインストールし、必要なプロファイルを作成したあとで、次のコマンドを実行してゲートウェイを起動します。

```
/opt/sun/portal_svr/bin/gateway -n default start
```

上記で、default はインストール時に作成したデフォルトのゲートウェイプロファイルです。

あとで独自のプロファイルを作成し、新しいプロファイルでゲートウェイを再起動することができます。

2. 次のコマンドを実行して、指定のポートでゲートウェイが実行中であるかどうかをチェックします。

```
netstat -a | grep port-number
```

デフォルトのゲートウェイポートは 443 です。

▶ Portal Server Secure Remote Access を停止するには

1. 次のコマンドを使用して、ゲートウェイを停止します。

```
/opt/sun/portal_svr/bin/gateway stop
```

このコマンドによって、該当のマシンで実行中のすべてのゲートウェイインスタンスが停止します。

2. 次のコマンドを実行して、ゲートウェイプロセスが実行中でないことを確認します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep entsys
```

Web Server の起動と停止

Web Server に依存関係はありません。

▶ Web Server を起動するには

1. `web_svr_base/https-admserv` に移動します。
2. Web Server 管理プロセスを起動します。
`./start`
3. `web_svr_base/https-hostname.domain` に移動します。
4. Web Server インスタンスを起動します。
`./start`
5. Web Server プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。
`/usr/bin/ps -ef | grep webservd`

```
./webservd-wdog -r /opt/sun/webserver-d  
/opt/sun/webserver/https-admserv/config -n http  
./webservd-wdog -r /opt/sun/webserver -d  
/opt/sun/webserver/https-host1.example.com  
webservd -r /opt/sun/webserver -d  
/opt/sun/webserver/https-admserv/config -n https-admserv  
webservd -r /opt/sun/webserver -d  
/opt/sun/webserver/https-admserv/config -n https-admserv  
webservd -r /opt/sun/webserver -d  
/opt/sun/webserver/https-host1.example.com/config  
webservd -r /opt/sun/webserver -d  
/opt/sun/webserver/https-host1.example.com/config
```

▶ Web Server のグラフィカルインタフェースにアクセスするには

1. ブラウザで `http://hostname.domain:port` という形式を使用して、Web Server インタフェースにアクセスします。次に例を示します。
`http://host1.example.com:80`
2. `http://hostname.domain:adminport` という形式を使用して、管理サーバーにアクセスします。次に例を示します。
`http://host1.example.com:8888`
Web Server にログインできれば、正常にインストールされていることになります。

▶ Web Server を停止するには

1. `web_svr_base/https-admserv` に移動します。

2. Web Server 管理プロセスを停止します。
`./stop`
3. `web_svr_base/https-hostname.domain` に移動します。次に例を示します。
4. Web Server インスタンスを停止します。
`./stop`
5. Web Server プロセスが実行中でないことを確認します。次に例を示します。
`/usr/bin/ps -ef | grep webservd`

Web Proxy Server の起動と停止

▶ Web Proxy Server を起動するには

1. `web_proxy_svr base/proxy-admserv` に移動します
2. Web Proxy 管理プロセスを起動します
`./start`
3. `web_proxy_svr base/proxy-serverid` に移動します
4. Web Proxy Server インスタンスを起動します
`./start`
5. Web Proxy Server プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。
`/usr/bin/ps -ef | grep proxyd`

▶ Socks Server を起動するには

1. `wps_svr_base/proxy-serverid` に移動します
2. Socks Server を起動します
`./start-sockd`
3. Socks Server プロセスが実行中であることを確認します。次に例を示します。
`/usr/bin/ps -ef | grep sockd`

▶ Web Proxy Server の管理用グラフィカルインタフェースにアクセスするには

1. ブラウザで `http://hostname.domain:adminport` という形式を使用して、管理サーバーにアクセスします。次に例を示します。

`http://host1.example.com:8081`

Web Proxy Server にログインできれば、正常にインストールされていることになります。

▶ Web Proxy Server を停止するには

1. `web_proxy_svr_base/proxy-admserv` に移動します
2. Web Proxy 管理プロセスを停止します
`./stop`
3. `web_proxy_svr_base/proxy-serverid` に移動します
4. Web Proxy Server インスタンスを停止します。
`./stop`
5. Web Proxy Server プロセスが実行中でないことを確認します。たとえば次のようになります
`/usr/bin/ps -ef | grep proxyd`

▶ Socks Server を停止するには

1. `web_proxy_svr_base/proxy-serverid` に移動します
2. Socks Server を停止します
`./stop-sockd`
3. Socks Server プロセスが実行中でないことを確認します。たとえば次のようになります
`/usr/bin/ps -ef | grep sockd`

Service Registry の起動と停止

Registry の設定プロセスにより、Registry が配備されている Application Server ドメインが起動します。管理作業の実行後に、ドメインを停止および再起動する必要があります。

ドメインを再起動する必要がある場合は、管理コンソールから通知されます。管理コンソールを使用してこの作業を実行できます。asadmin コマンドを使用する場合は、Ant タスクを使用してドメインを停止および起動できます。

▶ Service Registry を起動するには

1. Service Registry インストールディレクトリに移動します。
`cd ServiceRegistry-base/install`
2. 次のコマンドを実行します。
`ant -f build-install.xml appserver.domain.start`

▶ Service Registry を停止するには

1. Service Registry インストールディレクトリに移動します。
`cd ServiceRegistry-base/install`

2. 次のコマンドを実行します。

```
ant build-install.xml appserver.domain.stop
```

▶ Service Registry を再起動するには

1. Service Registry インストールディレクトリに移動します。

```
cd ServiceRegistry-base/install
```

2. 次のコマンドを実行します。

```
ant build-install.xml appserver.domain.bounce
```

▶ Web コンソールにアクセスするには

1. ブラウザで `http://hostname.domain:port` という形式を使用して、Service Registry Web コンソールにアクセスします。次に例を示します。

```
http://host1.example.com:6060
```

インストールに関する問題のトラブルシューティング

次の各節では、Sun Java™ Enterprise System のインストールとアンインストールに関する問題の解決方法を説明します。

- [一般的なトラブルシューティング方法](#)
- [インストールに関する問題](#)
- [アンインストールに関する問題](#)
- [Common Agent Container の問題](#)
- [コンポーネントのトラブルシューティングに関する情報](#)

一般的なトラブルシューティング方法

この節では、問題の原因を突き止めるための一般的なガイドラインを示します。次のトピックについて説明します。

- [インストールログファイルを検査する](#)
- [コンポーネントログファイルを検査する](#)
- [製品の依存関係を確認する](#)
- [リソースと設定をチェックする](#)
- [検証手順を実行する](#)
- [Directory Server の接続をチェックする](#)

- パスワードを確認する
- インストール済みコンポーネントまたはアンインストール済みコンポーネントを検査する
- 管理者アクセスを確認する

インストールログファイルを検査する

インストール時またはアンインストール時に問題が発生した場合は、Sun Java Enterprise System インストーラに関連する問題について次のログをチェックします。

`/var/opt/sun/install/logs`

システムに関連する問題については、ログディレクトリ内で該当するログファイルをチェックします。

`/var/adm/sw/swinstall.log` (インストールに関する問題)

`/var/adm/sw/swremove.log` (アンインストールに関する問題)

ほとんどのログには次の 2 つのバージョンがあります。

- A バージョンのログファイルには、完了の状況が記録されます。
- B バージョンのログファイルには、より詳細なログメッセージが含まれます。

次の表に、ログファイルの形式を示します。

表 31 Sun Java Enterprise System のログファイル名の形式

ログに記録されるエンティティ	ログファイル名の形式
インストーラ: コンポーネント	<code>Java_Enterprise_System_install.Atimestamp</code>
	<code>Java_Enterprise_System_install.Btimestamp</code>
	<code>Java_Enterprise_System_Config_Log.id</code>
インストーラ: 共有コンポーネント	<code>JES_V4_OrionConfig_log.timestamp</code>
	<code>JES_V4_OrionPanelFlow_log.timestamp</code>
アンインストールプログラム	<code>Java_Enterprise_System_uninstall.Atimestamp</code>
	<code>Java_Enterprise_System_uninstall.Btimestamp</code>
	<code>Java_Enterprise_System_Config_Log.id</code>
インストールの概要	<code>Java_Enterprise_System_Summary_Report_install.timestamp</code>
	<code>Java_Enterprise_System_Summary_Report_uninstall.timestamp</code>
	<code>JES_V4_MasterLog_log.timestamp</code>
依存関係	<code>Java_Enterprise_System_Dependency_Check_install.timestamp</code>

Sun Java Enterprise System の設定ログおよびコンポーネントログとともに、アンインストールおよびインストーラのログファイルを検査することで、アンインストールに関する問題の発生源を特定するのに役立ちます。たとえば、インストールログに記載されているパッケージと、アンインストールログに記載されているパッケージを比較することができます。

多くのコンポーネントは、同じディレクトリにインストールログファイルを書き込みます。コンポーネントログファイルの詳細については、「[コンポーネントのトラブルシューティングに関する情報](#)」を参照してください。

トラブルシューティングのためにログファイルを使用する場合は、最初に発生した問題を分離するようにします。多くの場合、最初の問題によって次の問題が引き起こされています。次の手順に従います。

1. インストールの概要ファイルを調査します。このファイルには、インストールおよび設定されている内容が詳しく記述されています。

問題が発生した場合、どのコンポーネントで問題が発生したかを確認します。複数の問題が発生した場合は、最初の問題を分離します。

2. 詳細なログファイルを調査します。
 - a. 最初に発生したエラーまたは警告を探し、その解決を試みます。1つのエラーを解決すると、無関係と思われる後続のエラーが数多く解決されることがあります。
 - b. 問題が発生したコンポーネントまたはパッケージの名前を探します。

ログファイルから、次の手順を決める手がかりが得られます。次に例を示します。

- 設定上の問題が発生した場合は、設定の概要を参照して、使用した設定を検査します。
- ディレクトリの衝突があった場合は、コンポーネントで予約されているディレクトリを指定していないことをチェックします。

コンポーネントログファイルを検査する

コンポーネントの起動で問題が発生した場合は、コンポーネントのログファイルを検査します。コンポーネントログファイルについては、「[コンポーネントのトラブルシューティングに関する情報](#)」を参照してください。

製品の依存関係を確認する

多くのコンポーネントには、インストール時の依存関係があります。1つのコンポーネントに影響する問題が、別のコンポーネントに影響する可能性があります。満たされていない相互依存関係をチェックするために、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3313?l=ja>)の「コンポーネントの依存関係がインストールに与える影響」の内容に精通しておいてください。続いて、次の内容をチェックします。

- 概要ファイルとログファイルを参照して、関連する製品で問題が発生していないかどうかを確認します。これらのファイルによって、最初に対処すべき対象の手がかりが得られる可能性があります。
- 接続情報が正しく指定されていることをチェックします。次に例を示します。

- Directory Server の設定時に指定した情報が、Directory Server を使用するコンポーネントに指定したディレクトリ情報と一致していること
- Portal Server または Portal Server SRA に指定した Access Manager の情報が、Access Manager に指定した情報と一致していること

リソースと設定をチェックする

次に示すホストレベルの問題がインストールに関する問題を発生させることがあります。

- **アップデート**：推奨されるアップデート (パッチ) を適用していることを確認します。
- **ディスク容量**：ディスクのパーティション設定と、どのパーティションにインストールディレクトリが設定されているかが関係します。インストールディレクトリ /var/opt および /etc/opt、/opt、/、/tmp、またはデフォルト以外で指定したディレクトリに十分なディスク容量が必要です。
- **ネットワークポート**：設定時に Sun Java Enterprise System コンポーネントのポート番号を指定しているので、次の内容をチェックします。
 - /etc/services ファイルで標準のポート番号を確認します。
 - 概要のログファイルで、設定した内容と標準値を比較します。ポート番号の入力間違いや、通常ほかのサーバーが使用するポートに異なるサーバーを設定していないか確認します。
 - コマンド netstat -a を使用して、システム上の現在のポート使用状況を参照します。すでに使用されているポート番号が割り当てられていないかを確認します。
- **IP アドレス**：設定時に IP アドレスを指定しています。正しい IP アドレスが入力されていることをチェックします。解決のための確認項目を次に示します。
 - システムに複数のネットワークインタフェースがあり、それぞれ固有の IP アドレスが割り当てられていないか。
 - 高可用性の設定で、論理ホストの IP アドレスまたはクラスタノードの IP アドレスが指定されていないか。

検証手順を実行する

コンポーネントの起動で問題が生じている場合は、コンポーネントプロセスが実行中であることを確認し、[インストールに関する問題のトラブルシューティング](#)の検証手順を実行します。

Directory Server の接続をチェックする

Directory Server に依存するコンポーネントをインストールしている場合は、次のいずれかが原因で問題が発生する可能性があります。

- 指定した Directory Server のユーザー ID とパスワードが正しくない。
- 指定した LDAP ポートが正しくない。
- Directory Server にアクセスできない。

インストーラの対話モードでは、Directory Server の接続がインストール時にチェックされますが、サイレントモードではチェックされません。Directory Server が使用できないときにサイレントモードでインストールを実行すると、Access Manager または Portal Server がインストールに失敗する可能性があります。

Web Server のファイルとディレクトリを削除する

編集済みの設定ファイルなどのカスタマイズされたファイルへの上書きを防ぐために、ファイルが格納されているディレクトリに Web Server をインストールすることはできません。

Web Server を再インストールする場合は、インストールディレクトリが空であることを確認します。空でない場合、格納されているファイルを別の場所に移動してから、再度インストールを実行します。

パスワードを確認する

インストール時にはインストーラによって、各コンポーネントのパスワードを入力するよう要求されます。異なるマシンに各種コンポーネントをインストールする場合、各マシンで一致するパスワードを設定することが重要です。

パスワードに関する問題を解決するには、アンインストールしてから再インストールする必要がある場合があります。アンインストールに失敗した場合は、「[アンインストール時の消し残りファイルによってインストールに失敗する](#)」を参照してください。

インストール済みコンポーネントまたはアンインストール済みコンポーネントを検査する

インストール済みコンポーネントに問題があり、再インストールやアンインストールができない場合、HP-UX `swlist` コマンドを使用してインストール済みパッケージをチェックします。

管理者アクセスを確認する

『Sun Java Enterprise System インストールガイド』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3313?l=ja>) の「アンインストーラ用の管理者アクセス権の付与」で説明されているように、アンインストール時にはアンインストールプログラムに管理者アクセス権を与えることが必要になる場合があります。アンインストール時に指定するユーザー ID とパスワードが正しいことを確認してください。

インストールに関する問題

この節では、インストール時に発生する可能性がある次の問題について説明します。

- [アンインストール時の消し残りファイルによってインストールに失敗する](#)
- [インストーラによるインストールが完了したが、製品がマシンにインストールされていない](#)
- [インストーラまたはアンインストーラが例外なく特定のパネルでハングする](#)
- [依存関係が原因でインストールに失敗する](#)
- [swagent の実行中にインストールに失敗する](#)
- [予期しない外部エラーが発生する](#)

- グラフィカルインストーラが応答しない
- サイレントインストールが失敗して「状態ファイルの互換性がないか破損しています」というメッセージが表示される
- サイレントインストールに失敗する
- ターミナルエコーがオフになる
- マニュアルページが表示されない

アンインストール時の消し残りファイルによってインストールに失敗する

アンインストールに失敗すると、コンポーネントやパッケージが残ってしまうことがあります。その場合、Sun Java Enterprise System を再インストールする前に、コンポーネントやパッケージを手動で削除する必要があります。次のような状況で、この問題が見つかることがあります。

- アンインストールできなかったパッケージ名を表示してアンインストールプログラムが失敗する。
- コンポーネントをインストールしようとする、すでに削除したはずのコンポーネントがすでにインストール済みであることをインストーラが報告する。

製品と共有コンポーネントに関連するディレクトリをすべて削除しても、製品をアンインストールしていない場合は、再度インストールを行う前にすべての製品をアンインストールする必要があります。

インストーラによるインストールが完了したが、製品がマシンにインストールされていない

インストーラは処理に従ってインストールを完了しますが、製品はマシンにインストールされていません。これは、製品がアンインストーラではなく swremove によって手動でアンインストールされたことが原因と考えられます。

解決方法: アンインストーラを実行し、再インストールする製品を選択する必要があります。これによって、レジストリのエントリが消去されます。現在の productregistry のバックアップを取り、再度インストールを開始します。

インストーラまたはアンインストーラが例外なく特定のパネルでハングする

ユーザーがインストール中にインストーラを異常終了させると、次のロックファイルが作成されます。viz.

```
productregistry.access.lock  
productregistry.access.tmp.
```

これが、インストーラやアンインストーラをハングさせる原因となります。

解決方法: 次の場所から両方のファイルを削除する必要があります。/var/adm/sw

依存関係が原因でインストールに失敗する

いずれかの依存関係が満たされないとインストールに失敗します。失敗の詳細については、次のログを参照してください。

```
/var/adm/sw/swinstall.log
```

解決方法: インストール済みの依存性製品がすべて手動でアンインストールされていないことを確認する必要があります。

swagent の実行中にインストールに失敗する

swinstall または swremove コマンドを並行して実行すると、インストールに失敗します。

解決方法: swinstall および swremove コマンドをインストール時またはアンインストール時に使用していないことを確認する必要があります。

予期しない外部エラーが発生する

電源障害またはシステム障害が発生したか、CTRL キーを押しながら C キーを押して、インストーラ処理を停止した可能性があります。

解決方法: このエラーがインストール処理中または設定処理中に発生した場合は、インストールが部分的に残っている可能性があります。アンインストールプログラムを実行します。アンインストールプログラムが失敗する場合は、「**アンインストールが失敗し、ファイルが残された**」の指示に従ってください。

グラフィカルインストーラが応答しない

インストーラは画像の入力準備ができる前に画面に画像を作成することがあります。インストールウィザードでは、間をおかずに繰り返し「次へ」をクリックすることはできません。

解決方法: デフォルトの選択を表すボタンには、青色の四角が表示されます。ボタンそのものが表示されたあとに、この四角が表示されることがあります。ボタンをクリックする前に、青色の四角が表示されるのを待ちます。

サイレントインストールが失敗して「状態ファイルの互換性がないか破損しています」というメッセージが表示される

使用している状態ファイルが、ファイルを使用しているプラットフォームと同じプラットフォームで作成された場合、問題の原因は未知のファイル破損エラーである可能性があります。

解決方法: サイレントインストールを実行しているプラットフォームと同じプラットフォームで状態ファイルを作成した場合は、新しい状態ファイルを作成し、再インストールします。

サイレントインストールに失敗する

状態ファイルを編集した場合は、その影響でエラーが発生した可能性があります。たとえば、次の内容をチェックします。

- すべてのローカルホストパラメータに定数値が設定されているか。
- パラメータ値の大文字と小文字の区別が正しいか。
- 置き換える値を入力せずに必須パラメータを削除したか。
- すべてのポート番号が有効で、割り当て済みでないか。

解決方法 : 問題を解決して、状態ファイルを再生成します。

ターミナルエコーがオフになる

サイレントモードのインストール中に、パスワード要求のタイムアウトでユーザーが終了すると、ターミナルエコーがオフになります。

解決方法 : エコーをオンにするには、コマンド `stty echo` を実行する必要があります。

マニュアルページが表示されない

マニュアルページが表示されない場合は、インストールしたコンポーネントに対して `MANPATH` 環境変数が正しく設定されていない可能性があります。

解決方法 : `/etc/MANPATH` を新しいマニュアルページのディレクトリをポイントするように更新します。

アンインストールに関する問題

この節では、アンインストールに関する次の問題の原因と解決方法を説明します。

- アンインストールプログラムが見つからない
- アンインストールが失敗し、ファイルが残された
- 製品レジストリが破損している
- アンインストーラが設定 `Directory Server` に接続できない

アンインストールプログラムが見つからない

Sun Java Enterprise System のインストールプログラムによって、アンインストールプログラムはシステムの次の場所に配置されます。

```
/var/sadm/prod/SUNWentsys4/uninstall
```

アンインストールプログラムがこの場所がない場合は、次のいずれかの可能性があります。

- Sun Java Enterprise System がこのホストにインストールされなかった。
- Sun Java Enterprise System のアンインストールプログラムによって、このホストのすべてのコンポーネントとアンインストールプログラム自身がすでに削除されている。

アンインストールプログラムはアンインストール中に Sun Java Enterprise System コンポーネントがホスト上に存在しないことを検出すると、自身をアンインストールします。

- インストールが失敗したときに、次のいずれかの状況が発生した。
 - アンインストールプログラムがこのホストにインストールされなかった。
 - アンインストールプログラムが削除されたが、ホスト上に一部の Sun Java Enterprise System コンポーネント残っている。

解決方法 : 「アンインストールが失敗し、ファイルが残された」の説明に従ってシステムを手動でクリーンアップします。

アンインストールが失敗し、ファイルが残された

アンインストールプログラムがファイルまたはプロセスを残したために手動のクリーンアップが必要な場合は、次の手順に従ってシステムからパッケージを削除します。

▶ パッケージを手動でクリーンアップするには

1. どのパッケージを削除するかを判別します。

システム上のパッケージを、「[インストール可能なパッケージ](#)」に記載されている Sun Java Enterprise System パッケージと比較します。swlist コマンドを使用して、インストールされているパッケージを判別できます。

2. Sun Java Enterprise System コンポーネントの実行中のプロセスをすべて停止します。

プロセスの停止方法については、「[コンポーネントの起動と停止](#)」を参照してください。「[コンポーネントのトラブルシューティングに関する情報](#)」の節には、各コンポーネントに関する情報と、コンポーネントのマニュアルへのリンクが記載されています。

3. カスタム設定とユーザーデータを次に行うインストールで使用する場合は、すべてバックアップします。

『Sun Java Enterprise System インストールガイド』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3313?l=ja>) の Sun Java Enterprise System コンポーネントのアンインストール動作に関する章に、バックアップ対象の設定とユーザーデータに関する情報が掲載されています。詳細については、各コンポーネントのコンポーネントマニュアルを参照してください。

4. swremove コマンドを使用して、Sun Java Enterprise System コンポーネントパッケージを削除します。
5. 次に行うインストールで使用しないコンポーネントディレクトリとその内容が残っている場合は、すべて削除します。これらのディレクトリをあとで使用する場合は、別の場所に移動します。
6. 次の場所に格納されている製品レジストリファイルを更新します。

```
/var/adm/sw/productregistry
```

アンインストールプログラムはこのレジストリを使用して、どのコンポーネントがホストにインストールされているかを判別します。インストーラとアンインストールプログラムはどちらも、インストールまたはアンインストールの完了時に製品レジストリを更新します。

注 アンインストールプログラムを使用しないでパッケージを手動で削除する場合は、システムにインストールされているソフトウェアを正確に反映するように、製品レジストリを編集する必要があります。

7. 次の場所に格納されているシステムのログファイルをクリーンアップします。

```
/var/opt/sun/install/logs
```

パッケージを手動で削除したあとは、ログファイルにシステムの状態が正確に反映されていない可能性があります。

製品レジストリが破損している

アンインストールプログラムは、アンインストール時に製品レジストリファイルを使用して、アンインストールする必要がある対象を判別します。

```
/var/adm/sw/productregistry
```

- アンインストールプログラムの実行に失敗した場合は、バックアップコピーから製品レジストリを復元したあとに、再度アンインストールの実行が必要になる場合があります。
- パッケージを手動で削除すると、製品レジストリは自動的に更新されません。その後アンインストールプログラムを実行すると、システムが製品レジストリに正しく反映されていないために問題が発生する可能性があります。この場合、再度インストールを実行してからアンインストールプログラムを実行することができます。

アンインストーラが設定 Directory Server に接続できない

管理サーバーまたは Directory Server のアンインストール時に、アンインストールプログラムは管理者のユーザー ID とパスワードを使用して設定 Directory Server に接続しようとします。これらの ID とパスワードはアンインストールプログラムの最初に指定します。アンインストールプログラムが設定 Directory Server に接続できない場合、つまり管理者ユーザー ID とパスワードが無効な場合、アンインストールプログラムは続行できないことを示すエラーメッセージを表示します。

解決方法: この節で説明する手順を実行し、アンインストールを完了します。この手順を完了するために Sun Java Enterprise System アンインストールプログラムを終了する必要はありません。

注 次に示す手順は、Directory Server インスタンスが次の場所で設定されていることを前提としています。

```
/opt/sun/mps/serverroot/slapd-Dir_Svr_Instance_Name
```

別の場所を設定した場合は、それに応じて場所を変更してください。

▶ 管理サーバーまたは Directory Server のアンインストールに関するトラブルシューティングを行い、処理を完了させるには

1. 設定ディレクトリをホストしている Directory Server インスタンスが実行中であることを確認します。たとえば、次のように slapd プロセスを検索します。

```
/usr/bin/ps -ef | grep slapd
```

2. 設定 Directory Server が実行中でない場合は、次の手順に従います。

- a. 設定ディレクトリのホストに root としてログインします。
- b. 次のコマンドを使用して、設定 Directory Server を起動します。

```
/opt/sun/mps/serverroot/slapd-Dir_Svr_Instance_Name
./start-slapd
```

3. 設定 Directory Server が実行中であれば、有効なユーザー ID とパスワードを使用していることを確認し、アンインストールを続行します。
4. 管理者ユーザー ID とパスワードが無効な場合、アンインストールプログラムは停止し、次のエラーを表示します。

指定した管理者 ID とパスワードで設定 Directory Server に接続できませんでした。

アンインストールを継続するには、次のように Directory Server と管理サーバーのいずれか一方または両方を手動で設定解除する必要があります。

- a. 設定ディレクトリをホストしている Directory Server インスタンスを停止します。たとえば、root の権限で次のコマンドを使用します。

```
/opt/sun/mps/serverroot/slapd-Dir_Svr_Instance_Name
./stop-slapd
```

- b. 次の設定解除プログラムを管理サーバーと Directory Server のそれぞれに対して実行します。

```
/opt/sun/sbin/mpsadmserver unconfigure
/opt/sun/sbin/directoryserver -u 5.2 unconfigure
```

設定解除中、設定 Directory Server に接続できないことが通知されます。

- c. 「継続」をクリックして、設定解除を継続します。
 - d. 設定解除プログラムの実行後、アンインストールの手順を続けます。
 - e. 管理者ユーザー ID とパスワードの入力を要求されます。
 - f. 任意の値を入力します。アンインストール中、これらの値は無視されます。
5. アンインストールが完了するまで継続します。

Common Agent Container の問題

この節では、Common Agent Container の共有コンポーネントに関係して発生する可能性のある問題について説明します。

- **ポート番号の衝突**
- **root パスワードに関するセキュリティー障害**
- **ロックファイルに関するエラー通知**

ポート番号の衝突

デフォルトでは、Sun Java Enterprise System 内の Common Agent Container は次のポート番号を使用します。

- JMX ポート (TCP) = 10162
- SNMP Adaptor ポート (UDP) = 10161
- トラップ用 SNMP Adaptor ポート (UDP) = 10162
- Commandstream Adaptor ポート (TCP) = 10163

root パスワードに関するセキュリティー障害

Sun Java Enterprise System を実行しているマシンでセキュリティーキーの再生成が必要になる場合があります。たとえば、root パスワードが露呈したか侵害された可能性がある場合は、セキュリティーキーを再生成する必要があります。Common Agent Container サービスが使用するキーは、次の場所に格納されています。

```
/etc/opt/sun/cacao/security
```

正常に動作していれば、これらのキーはデフォルト設定のまま残されています。セキュリティーキーが侵害された可能性によってキーを再生成する必要がある場合は、次の手順に従ってキーを再生成することができます。

1. root として、Common Agent Container の管理デーモンを停止します。

```
/opt/sun/cacao/bin/cacaoadm stop
```

2. セキュリティーキーを再生成します。

```
/opt/sun/cacao/bin/cacaoadm create-keys --force
```

3. Common Agent Container の管理デーモンを再起動します。

```
/opt/sun/cacao/bin/cacaoadm start
```

ロックファイルに関するエラー通知

cacaoadm サブコマンドを発行するときに、まったく同じ時間に別のユーザーがコマンドを発行した可能性があります。ただし、cacaoadm サブコマンドは同時に 1 つしか発行できません。

次のエラーメッセージが生成されます。

```
If cacaoadm daemon is running, it is busy executing another command.  
Otherwise remove lock file /var/opt/sun/cacao/run/lock.
```

この通知メッセージを受け取った場合の最初の対応として、しばらく待ってから再度コマンドを発行することをお勧めします。

再度同じ通知メッセージを受け取った場合は、Common Agent Container の管理デーモンによってロックファイルが削除されていない可能性があります。これは、クラッシュの場合に発生することがあります。ロックファイルによって、その後の cacaoadm サブコマンドの実行が阻止されます。

エラーメッセージに示されている場所からロックファイルを削除します。

コンポーネントのトラブルシューティングに関する情報

この節では、コンポーネントに関する簡単なヒントを説明します。また、役に立つマニュアルの参照先も示します。

次の情報もトラブルシューティングに役立ちます。

- 『Sun Java Enterprise System インストールガイド』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3313?l=ja>)の「インストールシーケンスの作成」にコンポーネントの相互依存関係が説明されています。
- 手順については、「インストールに関する問題のトラブルシューティング」および「コンポーネントの起動と停止」の各節を参照してください。

Access Manager トラブルシューティングツール

表 32 Access Manager トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	AM デバッグログの場所 /var/opt/sun/identity/logs /var/opt/sun/identity/debug
設定ファイル	AMConfig.properties /etc/opt/sun/identity/config
デバッグモード	『Sun Java System Access Manager Developer's Guide』 (http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-2139)を参照してください。

管理サーバトラブルシューティングツール

表 33 管理サーバトラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	<p>インストールログディレクトリ</p> <p>/var/opt/sun/install/logs</p> <p>設定ログファイル</p> <p>Administration_Server_install.Atimestamp Administration_Server_install.Btimestamp</p> <p>ログインオプションの詳細については、『Sun Java System Administration Server Administration Guide』 (http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-7612) を参照してください。</p>
トラブルシューティング	<p>『Sun Java System Administration Server Administration Guide』 (http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-7612) を参照してください。</p>

Application Server トラブルシューティングツール

表 34 Application Server トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	<p>ログファイルディレクトリ</p> <p>/var/opt/sun/install/logs/</p> <p>Application Server インスタンスログディレクトリ (最初に作成されたインスタンスのデフォルト格納場所)</p> <p>/var/opt/sun/appserver/domains/domain1/logs</p> <p>メッセージログファイル名</p> <ul style="list-style-type: none"> server.log (サーバーインスタンスごと)
設定ファイル	<p>設定ファイルディレクトリ /var</p>
トラブルシューティング	<p>『Sun Java System Application Server Enterprise Edition Troubleshooting Guide』 (http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-2562) を参照してください。</p>

Calendar Server トラブルシューティングツール

表 35 Calendar Server トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	管理サービス (csadmin) admin.log 分散データベースサービス (csdwpd) dwp.log HTTP サービス (cshttpd) http.log 通知サービス (csnotifyd) notify.log デフォルトログディレクトリ /var/opt/sun/calendar/logs 詳細については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』 (http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3568?l=ja) を参照して ください。
設定ファイル	/opt/sun/calendar/config/ics.conf
デバッグモード	デバッグモードを使用するには、Calendar Server 管理者が ics.conf ファイルの logfile.loglevel 設定パラメータを設定します。次に例を示します。 <pre>logfile.loglevel = "debug"</pre> 詳細については、『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』 (http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3568?l=ja) を参照して ください。
トラブルシューティング	『Sun Java System Calendar Server 管理ガイド』 (http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3568?l=ja) を参照して ください。

Communications Express トラブルシューティングツール

Communications Express のトラブルシューティングについては、『Sun Java System Communications Express 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1065?l=ja>) の「障害追跡」の章を参照してください。

Directory Proxy Server トラブルシューティングツール

表 36 Directory Proxy Server トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	デフォルトログファイル <DPS Server root>/dps-hostname/logs/fwd.log 詳細については、『Sun Java System Directory Proxy Server 管理ガイド』 (http://docs.sun.com/doc/819-2016?l=ja) を参照してください。

表 36 Directory Proxy Server トラブルシューティングツール (続き)

トピック	詳細
トラブルシューティング	『Sun Java System Directory Proxy Server 管理ガイド』 (http://docs.sun.com/doc/819-2016?l=ja) を参照してください。

Directory Server トラブルシューティングツール

表 37 Directory Server トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	インストールログファイル /var/opt/sun/install/logs 設定ログファイル <ul style="list-style-type: none"> Directory_Server_install.Atimestamp Directory_Server_install.Btimestamp ログファイルの管理については、『Sun Java System Directory Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-2011?l=ja) を参照してください。
トラブルシューティング	『Sun Java System Directory Server 管理ガイド』 (http://docs.sun.com/doc/819-2011?l=ja) を参照してください。

Instant Messaging トラブルシューティングツール

表 38 Instant Messaging トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	サーバーログ xmppd.log エージェントカレンダーログ agent-calendar.log ウォッチドッグログ iim_wd.log マルチプレクサログ mux.log デフォルトログディレクトリ /var/opt/sun/im/log 詳細については、『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』 (http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1487?l=ja) を参照してください。
設定ファイル	/opt/sun/im/config/iim.conf

表 38 Instant Messaging トラブルシューティングツール (続き)

トピック	詳細
デバッグモード	<p>デバッグモードを使用するには、Instant Messaging Server 管理者が <code>iim.conf</code> ファイルの <code>iim.log.iim_server.severity</code> 設定パラメータを設定します。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバーコンポーネントのログレベル <code>iim.log.iim_server.severity = "DEBUG"</code> • マルチプレクサコンポーネントのログレベル <code>iim.log.iim_mux.severity = "DEBUG"</code> • ウォッチドッグコンポーネントのログレベル <code>iim.log.iim_wd.severity = "DEBUG"</code> <p>詳細については、『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-1487?l=ja) を参照してください。</p>
トラブルシューティング	<p>『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』(http://docs.sun.com/doc/819-1487?l=ja) を参照してください。</p>

役に立つマニュアル

クライアントのオンラインヘルプおよび『Sun Java System Instant Messaging 管理ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/819-1487?l=ja>) を参照してください。

Message Queue トラブルシューティングツール

表 39 Message Queue トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	<p>インストールログファイル</p> <p><code>/var/opt/sun/mq/instances/<instance name>/log</code></p> <p>『Sun Java System Message Queue 管理ガイド』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3560?l=ja) を参照してください。</p>

表 39 Message Queue トラブルシューティングツール (続き)

トピック	詳細
トラブルシューティング	<p>パフォーマンスの問題については、『Sun Java System Message Queue 管理ガイド』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3560?l=ja)の「メッセージサービスの分析と調整」の章を参照してください。</p> <p>Message Queue のトラブルシューティングについては、『Sun Java System Message Queue 管理ガイド』の「問題のトラブルシューティング」の章および MQ Forum (http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3560?l=ja)を参照してください。</p> <p>Knowledge Base (http://developers.sun.com/prodtech/msgqueue/reference/techart/index.html)ではその他の記事を参照できます。</p>

Messaging Server トラブルシューティングツール

表 40 Messaging Server トラブルシューティングツール

トピック	詳細
実行可能ファイルの格納場所	/opt/sun/messaging/sbin
ログファイル	/opt/sun/messaging/log
トラブルシューティング	<p>『Sun Java System Messaging Server Administration Guide』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-2650)を参照してください。</p>

Portal Server トラブルシューティングツール

表 41 Portal Server トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイルおよびデバッグファイル	<p>Portal Server は Access Manager と同じログファイルおよびデバッグファイルを使用します。これらのディレクトリは次のとおりです。</p> <p>ログファイル /var/opt/sun/identity/logs</p> <p>デバッグファイル /var/opt/sun/identity/debug</p> <p>Portal Server のログファイルおよびデバッグファイルの管理については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4610?l=ja)を参照してください。</p> <p>Portal Server デスクトップの場合、デバッグファイルは次の場所に格納されています。</p> <p>/var/opt/sun/identity/debug/desktop/debug</p> <p>/var/opt/sun/identity/debug/desktop.dpadm.debug</p> <p>これらのファイルの管理については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4610?l=ja)を参照してください。</p> <p>dpadmin、par、rdmgr、および sendrdm の各 Portal Server コマンド行ユーティリティには、デバッグメッセージを生成するオプションがあります。オプションについては、『Portal Server Administrator's Guide』を参照してください。</p>

Portal Server Secure Remote Access トラブルシューティングツール

表 42 Portal Server Secure Remote Access トラブルシューティングツール

トピック	詳細
デバッグログ	<p>ポータルゲートウェイのデバッグログは次のディレクトリに格納されています。</p> <p>/var/opt/sun/identity/debug/desktop/debug</p>

Web Server トラブルシューティングツール

表 43 Web Server トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	<p>Web Server のログファイルには、<code>errors</code> ログファイル、<code>access</code> ログファイルの 2 種類があります。どちらも <code>/opt/sun/webserver/https-instance_name/logs</code> に格納されています。</p> <p><code>errors</code> ログファイルには、サーバーで発生したすべてのエラーが記載されます。<code>access</code> ログには、サーバーへの要求とサーバーからの応答に関する情報が記録されます。詳細については、『Sun ONE Web Server 6.1 管理者ガイド』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0822?l=ja) を参照してください。</p>
トラブルシューティング	<p>『Sun ONE Web Server 6.1 Installation and Migration Guide』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0131) を参照してください。</p>
設定ファイルディレクトリ	<p><code>/opt/sun/webserver/https-instance-name/config</code></p>
デバッグモード	<p>次のオプションを使用できます。</p> <p>ログの出力は診断およびデバッグに使用することができます。<code>/server_root/https-instance_name/config/server.xml</code> ファイル内の LOG 要素の <code>loglevel</code> 属性には、<code>info</code>、<code>fine</code>、<code>finer</code>、または <code>finest</code> の値を設定できます。これらの値はデバッグメッセージの詳細レベルを示し、<code>finest</code> はもっとも詳細なレベルを意味します。LOG 要素の詳細については、『Sun ONE Web Server Administrator's Configuration File Reference』(http://docs.sun.com/doc/817-6248-10) を参照してください。</p> <p>デバッグフラグを有効にして、サーバー Web コンテナをデバッグモードで起動すると、Java Platform Debugger Architecture (JPDA) デバッグと結合する準備ができます。これを行うには、<code>/instance_root/https-server_name/config/server.xml</code> ファイル内で、JAVA 属性の <code>jvm.debug</code> フラグの値を <code>true</code> に設定します。詳細については、『Sun ONE Web Server Administrator's Configuration File Reference』(http://docs.sun.com/doc/817-6248-10) を参照してください。</p> <p>Sun Java System Studio 5 Standard Edition のプラグインによって、Web アプリケーションのデバッグを行うことができます。詳細については、『Sun ONE Web Server Programmer's Guide to Web Applications』(http://docs.sun.com/doc/817-6251-10) を参照してください。</p>

Web Proxy Server トラブルシューティングツール

表 44 Web Proxy Server トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	<p>Web Server のログファイルには、errors ログファイル、access ログファイルの 2 種類があります。どちらも <code>/opt/sun/webproxyserver/https-instance_name/logs</code> に格納されています。</p> <p>errors ログファイルには、サーバーで発生したすべてのエラーが記載されます。access ログには、サーバーへの要求とサーバーからの応答に関する情報が記録されます。詳細については、『Sun ONE Web Server 6.1 管理者ガイド』(http://docs.sun.com/doc/817-7509?l=ja) を参照してください。</p>
トラブルシューティング	<p>『Sun One Web Server 6.1 Installation』(http://docs.sun.com/doc/817-6245-10) を参照してください。</p>
設定ファイルディレクトリ	<p><code>/opt/sun/webserver/https-instance-name/config</code></p>
デバッグモード	<p>次のオプションを使用できます。</p> <p>ログの出力は診断およびデバッグに使用することができます。 <code>/server_root/https-instance_name/config/server.xml</code> ファイル内の LOG 要素の <code>loglevel</code> 属性には、<code>info</code>、<code>fine</code>、<code>finer</code>、または <code>finest</code> の値を設定できます。これらの値はデバッグメッセージの詳細レベルを示し、<code>finest</code> はもっとも詳細なレベルを意味します。LOG 要素の詳細については、『Sun ONE Web Proxy Server Administrator's Configuration File Reference』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3651) を参照してください。</p> <p>デバッグフラグを有効にして、サーバー Web コンテナをデバッグモードで起動すると、Java Platform Debugger Architecture (JPDA) デバッガと結合する準備ができます。これを行うには、 <code>/instance_root/https-server_name/config/server.xml</code> ファイル内で、JAVA 属性の <code>jvm.debug</code> フラグの値を <code>true</code> に設定します。詳細については、『Sun ONE Web Proxy Server Administrator's Configuration File Reference』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3651) を参照してください。</p> <p>Sun Java System Studio 5 Standard Edition のプラグインによって、Web アプリケーションのデバッグを行うことができます。詳細については、『Sun ONE Web Server Programmer's Guide to Web Applications』(http://docs.sun.com/doc/817-6251-10) を参照してください。</p>

Service Registry トラブルシューティングツール

表 45 Service Registry トラブルシューティングツール

トピック	詳細
ログファイル	ログファイルディレクトリ /var/opt/sun/install/logs/ Service Registry インスタンスログディレクトリ /var/opt/sun/SUNWsoar/domains/registry/logs メッセージログファイル名 server.log (サーバーインスタンスごと)
設定ファイルディレクトリ	設定ファイルディレクトリ /var
トラブルシューティング	『Sun Java System Service Registry 3 2005Q4 管理ガイド』 (http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3572?l=ja) を参照 してください。

既知の問題および制限事項

この節では、HP-UX 版 Sun Java Enterprise System 6 の既知の問題および制限事項について説明します。このコンポーネントの既知の問題および制限事項の一覧については、次のリリースノートを参照してください。

Sun Java Enterprise System コンポーネントに関連する既知の問題は、HP-UX の対応するコンポーネントリリースノートに記載されています。「このリリースで修正されたバグ」を参照してください。

次のトピックに関する既知の問題があります。

- インストール
- アンインストール

インストール

インストールに関するさまざまな問題

CLI モードでは、インストーラを使用して Portal Server Gateway だけをインストールすることはできない (6279513)

主な問題は、インストーラを使って Gateway のサブコンポーネントだけを選択できないため、インストーラを使って CLI モードで配備を実行できないという点です。

解決策 GUI モードでインストーラを使用します。

製品ライセンスが評価版である場合、Java ES 2005Q4 インストーラにはクエリーを実行するメカニズムが必要である (6265136)

インストーラは、共有コンポーネントが評価用コンポーネントかどうかをチェックし、評価用コンポーネントである場合はそのコンポーネントを置き換える必要があります。

解決策 インストールを開始する前に、ワークステーションに評価用コンポーネントがインストールされていないことを確認します。

Netlet プロキシの IP アドレス検証で問題が発生する (6317592)

Netlet プロキシのパネルで、インストーラが有効な IP アドレスを受け付けず、有効な IP アドレスを入力するように要求します。この問題は、GUI モードでも発生します。

解決策 /etc/hosts ファイルの情報が正しいことを確認します。

次のシナリオで JES4 を HP-UX プラットフォームにインストールする場合、Solaris、Linux、および Windows プラットフォームに比べて時間がかかる (6291473)

1. 「今すぐ設定」オプションを使って、Directory Server、管理サーバー、およびすべての言語パックをインストールする
2. 「あとで設定」オプションを使って、Directory Server、Web Server、Access Manager、Portal Server、およびすべての言語パックをインストールする
3. 「今すぐ設定」オプションを使って、Directory Server、Application Server、Access Manager、Portal Server、およびすべての言語パックをインストールする

解決策 システムに必要な言語のみを選択して製品コンポーネントをインストールします。

JES インストーラ CD/DVD をマウントすると、ディレクトリとファイル名が大文字で表示され、ファイル名にセミコロンが入る。

解決策- この問題は Rock Ridge 問題と呼ばれます。mount コマンドが cdcase や rr などの Rock Ridge オプションをサポートしていない場合、ファイル名は大文字で表示されます。次のパッチをインストールして、mount コマンドで Rock Ridge オプションをサポートする必要があります。

- | | | |
|---------------|---------|-----------------------------------|
| 1. PHKL_32035 | (オプション) | カーネルパッチ |
| 2. PHCO_25841 | 1.0 | Rock Ridge 拡張を mount_cdfs(1M) に追加 |
| 3. PHKL_26269 | 1.0 | ISO-9660 の Rock Ridge 拡張 |
| 4. PHKL_28025 | 1.0 | ISO-9660 の Rock Ridge 拡張 |

JES インストーラで AS の負荷分散プラグインパネルに Apache Web Server が表示される (6367708)

解決策 Sun Java System では、HP-UX でサードパーティー製の Web コンテナをサポートしていません。負荷分散プラグインの設定には Sun Java System Web Server を選択してください。Apache Web Server を選択した場合の結果は不明です。

Access Server が Web コンテナであるときに、委任管理設定プログラムが Web Server 情報を要求する (6270890)

委任管理サーバーは、Access Manager と同じ Web コンテナに配備されます。

解決策 Access Manager に対する Delegated Administrator の依存関係は、Delegated Administrator のインストール時に Access Manager を手動で選択することで一時的に実現できます。

複数のバージョンの comm_dsetup.pl が存在する (6226161)

解決策 /opt/sun/comms/dssetup/sbin にある comm_dssetup.pl のバージョンのみを使用します。ほかのバージョンはすべて無視します。

Access Manager が SSL を使用している場合、SSL 暗号化を使用して Portal Server を配備できない (6211026)

解決策 「あとで設定」オプションを使用して Portal Server をインストールします。

/opt/sun/portal_svr の dpadmin および pdeploy スクリプトを操作し、次のように java コマンド行にオプションを追加します。-D"java.protocol.handler.pkgs=com.ipplanet.services.comm"

/etc/opt/sun/identity/config/AMConfig.properties を編集し、certdb 設定を次のように変更します。

```
com.ipplanet.am.admin.cli.certdb.dir=/opt/sun/webserver/alias
com.ipplanet.am.admin.cli.certdb.prefix=https-< ホスト名 >< ドメイン名 >< ホスト名 >
com.ipplanet.am.admin.cli.certdb.passfile=/opt/sun/webserver/alias/.wtpass
```

(Web Server が使用しているものに基づく)

certdb のパスワードのみを含む /opt/sun/webserver/alias/.wtpass ファイルを作成します。これは Web Server 自体が使用する password.conf ファイルの形式とは異なることに注意してください。

```
cd /opt/sun/Portal_svr/lib;
JAVA_HOME=/usr/jdk/entsys-j2se ./psconfig
```

アンインストーラで Portal Server のアンインストールのパスワードが検証されない (6263414)

Portal Server のアンインストールプロセスを開始するには、正しい検証が必要です。

解決策 アンインストールプロセスを完了するためには、Portal Server のアンインストール画面で任意の値を入力します。

インストールログメッセージが常に正しいとは限らない (特定の ID なし)

ログメッセージが常に正しいとは限らないことに注意してください。たとえば、何らかのエラーの発生後に一部の (ただし全部ではない) コンポーネント製品がインストールされた場合でも、「ソフトウェアはインストールされませんでした」というメッセージが表示されます。

データサービス内の「Sun ONE」という表現は「Sun Java System」とすべきである (特定の ID なし)

Java ES アプリケーション用のデータサービスに関する名前や説明に出てくる Sun ONE はすべて、「Sun Java System」のことであると理解する必要があります。たとえば、「Sun ONE Application Server 用の Sun Cluster データサービス」は、「Sun Java System Application Server 用の ...」と理解する必要があります。

コンポーネント選択ページのコンポーネントの自動選択が紛らわしい (4957873)

コンポーネント製品を選択すると、インストーラは依存コンポーネント製品をすべてインストールするように自動的に選択します。コンポーネント製品選択ページには、元のコンポーネント製品とともに依存関係が選択されたことが示されません。

解決策なし。

選択したコンポーネントの表示がページによって異なる (5033467)

無効な選択を示す「**」はグローバルに実装されていません。

解決策なし。

Access Manager のインストール

マルチノードのインストールで Amconsole ホームページが表示されない (6291099)

マルチノードのインストールでは、Amconsole ホームページが表示されないことがあります。次に示した解決策を参照してください。

1. 最初のインスタンスのレルムコンソールにログインします (例 :<最初のノードのプロトコル>://<最初のノードの FQDN>:<最初のノードのポート>/amserver)
2. デフォルトのレルムに対応するリンクをクリックします。
3. 「レルム /DNS エイリアス」のテキストフィールドで、「<ノード 2 の FQDN>」を入力して「追加」をクリックします。
4. 「保存」をクリックします。
5. タブの上にあるブレッドクラムの「レルム」のリンクをクリックします。
6. 「設定」タブをクリックします。
7. 「システム設定」タブをクリックします。
8. 「プラットフォーム」サービスタブをクリックします。
9. 「インスタンス名」の下に「新規 ...」ボタンをクリックします。
10. 「サーバー」フィールドで、「<ノード 2 のプロトコル>://<ノード 2 の FQDN>:<ノード 2 のポート>」と入力します。
11. 「インスタンス名」フィールドで、未使用の番号を入力します (例 :2)
12. 「OK」をクリックします。
13. 「保存」をクリックします。

Access Manager SDK 設定が原因で Web サーバー起動障害のエラーが発生する (6293225)

Web Server の起動障害の問題は、Access Manager の SDK の設定に起因する可能性があります。現在のシナリオでは、AMConfig.properties ファイルに誤った情報が含まれているために、一連の Web Server の起動障害が発生します。次の変数の情報が正しくありません。

- com.iplanet.am.directory.host
- com.iplanet.am.server.host
- com.iplanet.am.console.host
- com.iplanet.am.profile.host
- com.iplanet.am.naming.url
- com.iplanet.am.notification.url

解決策 Access Manager SDK が Web Server とともにインストールされているノード B で、<Web Server インスタンスディレクトリ >/config/server.xml ファイルを変更し、必要な Access Manager JAR ファイルをクラスパスに追加します。

コンソールでのインストール設定が失敗する (5047119)

インストーラでは、ローカルサーバーへのコンソールでのインストール用 Web コンテナを設定しません。

解決策 2 つのインストールセッションに分けてコンソールでのインストールを実行します。

1. 最初のインストールセッションで、Web コンテナ (Application Server または Web Server) の「今すぐ設定」インストールを実行します。
2. 2 番目のインストールセッションで、Access Manager 管理コンソールの「あとで設定」インストールを実行します。
3. 2 番目のセッションの終了後に、Access Manager ユーティリティーディレクトリに移動します。たとえば、Solaris システムでは次のようにします。

```
# cd AccessManager-base/SUNWam/bin/
```

AccessManager-base は Access Manager のベースインストールディレクトリです。

4. amsamplesilent ファイルをコピーし、新しいファイル名を指定します。
5. amsamplesilent ファイルのコピーを編集し、DEPLOY_LEVEL (コンソールでのみ場合は 2)、CONSOLE_HOST、CONSOLE_PORT、および SERVER_PORT 変数を含む設定情報を指定します。
6. 編集した amsamplesilent ファイルを使って amconfig スクリプトを実行します。

```
# ./amconfig -s copy-of-amsamplesilent
```

copy-of-amsamplesilent は amsamplesilent ファイルのコピーの名前です。amsamplesilent ファイルおよび amconfig スクリプトの詳細については、『Access Manager 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。

単一引用符がパスワードおよびルートサフィックスで許可されない (バグ ID なし)

Access Manager では、パスワード (amadmin などの場合) および Directory Server ルートサフィックスで単一引用符 (¥) がサポートされません。ただし、バックスラッシュ (¥¥) はサポートされます。

インストーラで既存のディレクトリインストールのプラットフォームエントリが追加されない (6202902)
Java ES インストーラでは、既存のディレクトリサーバーインストール (DIRECTORY_MODE=2) のプラットフォームエントリは追加されません。

解決策 プラットフォームサービスのサーバーリスト属性を編集し、2 番目のインスタンスを追加します。たとえば、最初のインスタンスが host1.example.com である場合、そのインスタンスには http://host1.example.com:port|01 などのエントリがあります。2 番目のインスタンスが host2 上にあり、host1 と同じ Directory Server を使用する場合は、Access Manager 管理コンソールを使用して http://host2.example.com:port|02 などのエントリを追加します。

既存の DIT 上に Access Manager をインストールすると、Directory Server インデックスの再ビルドが必要になる (6268096)

検索性能を向上させるために、Directory Server にはいくつかの新しいインデックスがあります。したがって、既存のディレクトリ情報ツリー (DIT) を使用して Access Manager をインストールしたあとで、db2index.pl スクリプトを実行して Directory Server インデックスを再ビルドします。次に例を示します。#. /db2index.pl -D "cn=Directory Manager" -w password -n userRoot

db2index.pl script は、DS-install-directory/slapd-hostname/ directory にあります。

Access Manager に登録されたポータルサービスが、Access Manager SDK を使用して作成されたユーザーに追加されない (6280171)

解決策 commadmin コマンド行インタフェースを使用して作成されたすべてのユーザーに対して、Access Manager 管理コンソールを使用して足りないサービスをすべて登録する必要があります。

Access Manager の amadmin CLI の使用で大きな後退がある (6267167)

amadmin コマンド行インタフェースを使用するとき、amAdmin ユーザーの完全な DN を指定する必要があります。次に例を示します。

```
amadmin -u uid=amadmin,ou=people,o=isp -w
```

Identity Server の amadmin CLI を使用して一方の Identity Server からサブ組織を作成できない (5001850)

解決策 両方の Directory Server で、cn=config,cn=ldb database,cn=plugins, cn=config, nsslapd-lookthroughlimit set to -1 を含めるようにします。

コンソールでのインストール設定が失敗する (5047119)

インストーラでは、ローカルサーバーでのコンソールでのインストール用 Web コンテナを設定できません。

1. 最初のインストールセッションで、Web コンテナ (Application Server または Web Server) の「今すぐ設定」インストールを実行します。
2. 2 番目のインストールセッションで、Access Manager 管理コンソールの「あとで設定」インストールを実行します。

3. 2 番目のセッションの終了後に、Access Manager ユーティリティーディレクトリに移動します。たとえば、Solaris システムでは次のようにします。

```
# cd Access Manager-base/identity/bin
```

AccessManager-base は Access Manager のベースインストールディレクトリです。

4. *amsamplesilent* ファイルをコピーし、新しいファイル名を指定します。
5. *amsamplesilent* ファイルのコピーを編集し、DEPLOY_LEVEL (コンソールのみの場合 は 2)、CONSOLE_HOST、CONSOLE_PORT、および SERVER_PORT 変数を含む設定情報を指定します。
6. 編集した *amsamplesilent* ファイルを使って *amconfig* スクリプトを実行します。次に例を示します。

```
# ./amconfig -s copy-of-amsamplesilent
```

copy-of-amsamplesilent は *amsamplesilent* ファイルのコピーの名前です。

amsamplesilent ファイルおよび *amconfig* スクリプトの詳細については、『Access Manager 2005Q4 管理ガイド』を参照してください。

Directory Server の SSL が有効になっている場合の Access Manager 2005Q1 のインストール (バグ ID なし) Directory Server がすでにインストールされていて、SSL が有効になっている場合、Access Manager 2005Q1 のインストールは失敗します。Access Manager 2005Q1 をインストールするには、まず Directory Server の SSL を無効にする必要があります。Access Manager のインストールが終了してから、Directory Server の SSL を再度有効にします。

管理サーバーのインストール

管理サーバーが停止していると管理サーバーパッチの適用が失敗する (6273652)

管理サーバーを停止し、*patchadd* を使用してパッチを適用しようとすると、失敗します。

解決策 パッチを適用する前に管理サーバーを起動する必要があります。

Directory Server と管理サーバーを別々のセッションでインストールできない (5096114)

あるセッションで Directory Server をインストールしてから、別のセッションで管理サーバーをインストールしようとすると、管理サーバーがインストールおよび設定されていないのに管理サーバーのチェックボックスがすでに選択されています。そのため、管理サーバーをインストールおよび設定できません。

解決策 Directory Server と管理サーバーを同じセッションでインストールします。または、管理サーバーを手動で設定する方法について、『Directory Server 管理ガイド』を参照してください。

デフォルト以外の URI を使った Administration Server 8.1 への配備にアクセスできない (6308426)

Access Manager 7.0 を Application Server 8.1 にインストールし、Access Manager のデフォルト以外の URI を選択した場合 (たとえば、amconsole の代わりに idserver、amconsole の代わりに idconsole)、特に amas81configfile では、configureServerPolicy() は Access Manager がデフォルトの URI を使って設定されているユースケースの要因にはなりません。代わりに、Access Manager の war ファイルがデフォルトの URI を使って配備され、amserver.war、amconsole.war、および ampasword.war へのアクセス権を許可することを前提としています。

解決策次の手順を実行します。

1. Access Manager が配備された Application Server インスタンスを停止します。
2. 次のディレクトリに移動します。
`${AS_DOMAINS_DIR}/${AS_DOMAIN}/config`
3. コマンド `cp server.policy server.policy.orig` を入力します
4. 次の grant codeBase のポリシーを探します。

```

"file:${com.sun.aas.instanceRoot}/applications/j2ee-modules/amserver/-" {
permission java.net.SocketPermission "*", "connect,accept,resolve";
permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write"; }; grant
codeBase
"file:${com.sun.aas.instanceRoot}/applications/j2ee-modules/amconsole/-"
{ permission java.net.SocketPermission "*", "connect,accept,resolve";
permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write"; }; grant
codeBase
"file:${com.sun.aas.instanceRoot}/applications/j2ee-modules/ampasword/-"
{ permission java.net.SocketPermission "*", "connect,accept,resolve";
permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write"; };

```
5. 「amserver」を、grant codeBase の行にあるサービス Web アプリケーションの URI に置き換えます。

```

"file:${com.sun.aas.instanceRoot}/applications/j2ee-modules/amserver/-"
{

```
6. 旧バージョンモードのインストールの場合は、「amconsole」を、grant codeBase の行にあるコンソール Web アプリケーションの URI に置き換えます。

```

"file:${com.sun.aas.instanceRoot}/applications/j2ee-modules/amconsole/-"
{

```
7. 「ampasword」を、grant codeBase の行にあるパスワード Web アプリケーションの URI に置き換えます。

```

"file:${com.sun.aas.instanceRoot}/applications/j2ee-modules/ampasword/-"
{

```
8. Access Manager が配備された Application Server インスタンスを起動します。

Application Server のインストール

すでに使用されているポートを選択すると、インストールが失敗する (4922417)

解決策なし。

ユーザーが設定ページに入力するホスト名をインストーラが認識しない (4931514)

インストーラは、Application Server の「サーバー名」を要求します。ただし、インストーラは、テキストフィールドに入力される名前に関係なく、マシンの実際のホスト名を使用します。

解決策 サーバー名がサーバーのホスト名と異なる場合は、スーパーユーザーとしてログインして、目的のドメインディレクトリ（「サーバールート」ディレクトリ）に次のように入力します。

```
# find . -type f -exec grep -l $HOSTNAME {} \;
```

次に、必要に応じてファイルの内容を変更します。

Java ES 2005Q4 が要求するビルド 08 に間違った Application Server 名が表示される (6297837)

Sun Java™ System Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q2 Update 2 が正しい表記です。Sun Java™ System Application Server Enterprise Edition 8.1 2005Q4 という表記は誤りでした。

Directory Server のインストール

DPS 応答が遅いために Web Server で例外が発生し、システムが不安定になる

リモートノードから DPS サーバーに対して確立する接続が多すぎると、

DPS 応答が遅くなり、例外がスローされます。

解決策なし

サイレントモードの場合、Directory Server 設定出力で進捗バーが分割される (4928102)

コンポーネントを設定すると、対応する出力は、ログではなくインストーラの標準出力に送信されます。この動作により、CLI の進捗バーがインストーラ出力で複数の行に配置されます。

解決策なし

Directory Server 5 2005Q1 から Directory Server 2005Q4 へのアップグレード後に不正なバージョンの Directory Server が表示される (269446)

解決策 コンソールに表示されるバージョンは無視できます。正しいバージョン情報を取得するには、次のように入力します。

```
$SERVERROOT/bin/slapd/server/ns-slapd -v
```

/etc/ds および /etc/mps のために Directory Server インスタンスが作成されなかった (5094994)

サーバーを再設定する前に、残っている /etc/ds/v5.2/shared/config/certmap.conf リンクを削除します。

Directory Server をアンインストール後に再インストールすると、設定できない (6223527)

Directory Server をアンインストールしたあとに再インストールする場合、Directory Server は設定できません。アンインストール時に、`/var/opt/sun` が削除されません。その結果、ディレクトリ `slapd` が見つからず、Directory Server を起動しようとするとエラーが記録されます。

解決策 Directory Server のアンインストール後に、`/var/opt/sun` を削除してから再インストールします。

注 削除する前に、`/var/opt/sun` のサブディレクトリをすべて確認することをお勧めします

Directory Server と管理サーバーを別々のセッションでインストールできない (5096114)

あるセッションで Directory Server をインストールしてから、別のセッションで管理サーバーをインストールしようとすると、管理サーバーがインストールおよび設定されていないのに管理サーバーのチェックボックスがすでに選択されています。そのため、管理サーバーをインストールおよび設定できません。

解決策 Directory Server と管理サーバーを同じセッションでインストールします。または、管理サーバーを手動で設定する方法について、『Directory Server 管理ガイド』を参照してください。

Message Queue のインストール

Java ES インストーラを使って Message Queue をインストールした場合、アンインストールにはアンインストールを使用する必要があります (バグ ID なし)

デポパッケージを直接削除した場合、次回インストーラを実行したときに、Message Queue がまだインストールされているように見え、正しく動作しないことがあります。

解決策 Message Queue パッケージをすでに手動で削除した場合は、アンインストールを使って Message Queue をアンインストールする必要があります。アンインストールを実行し、削除する Message Queue コンポーネントを選択します。

Portal Server のインストール

2 つのホストのシナリオでゲートウェイを停止できない (6283068)

解決策 ゲートウェイを起動するには、`./gateway start -n default` と入力します。ゲートウェイを停止するには、`/gateway stop -n default` と入力します。

Portal Server ゲートウェイのログインが Porter Server の再起動後に行われる (6191449)

解決策 Portal Server、管理サーバー、または Web Server を再起動するたびに、ゲートウェイも再起動する必要があります。

ログインページが Proxylet でダウンロードされない (6216514)

Proxylet が有効になっている場合、SRA では依然として Rewriter 技術を使用して、Proxylet が起動する前にログインページとデスクトップページの一部を取得します。

解決策なし

ポータルデスクトップの再読み込み後に例外がスローされる (218871)

Instant Messaging リンクを起動し、ポータルデスクトップを更新すると、「エラー: コンテンツが利用できません」というメッセージが表示されます。また、次のファイルで例外がスローされます。

```
/var/opt/sun/identity/debug
```

解決策 /var/opt/sun/appserver/domain1/config にある domain.xml ファイルを編集し、次の操作を実行します

```
/opt/sun/share/lib/jaxen-core.jar の Java 設定クラスパスプレフィックスを変更します
```

```
stop-domain domain1 と入力します
```

```
asadmin start-domain と入力します
```

ユーザー名とパスワードを入力します。

リモートサーバーとの接続が確立した後に (約 10 ~ 15 秒)、Netlet がクラッシュする (6186633)

この問題は、Citrix Metaframe、PC Anywhere、Remotely Anywhere、Tarentella や、これらに類似したアプリケーションを使用している場合に発生します。

解決策なし

Portal Server へのログイン時に、情報自体は有益だが問題のあるページがユーザーに表示される (6267783)

Portal Server にログインすると、

認証されたことを知らせる通知ページが表示されますが、このページを終了することができません。

解決策 管理コンソールを使用して「アイデンティティ管理」タブをクリックし、「サービス」表示を選択して、ポータル URL (例: `http://<FQDN>:<ポート>/portal`) を使用して「デフォルトの成功ログイン URL」の値を変更します。

Portal Server のインストールおよびアンインストールが、ハングアップしているように見える (5106639)

Portal Server のインストールおよびアンインストール時に、インストーラおよびアンインストーラがハングアップしたように見えます。インストールまたはアンインストールが正常に終了するまで最大 30 分かかることがあります

複数セッションによるインストールでゲートウェイのリダイレクションが行われぬ (4971011)

インストールモードに関係なく、ゲートウェイのリダイレクションは複数セッションによるインストールの間は発生しません。

解決策

▶ ゲートウェイのリダイレクションを有効にするには

1. Portal Server ブラウザを起動して、amconsole にアクセスします。
2. 「サービス設定」タブで、「ゲートウェイ」を選択します。
3. ウィンドウの右下で、「default」および「セキュリティ」タブをクリックします。
4. 続いて、「非認証 URL」フィールドに、「http://IS_HOST:PORT/amserver/UI/Login」のような URL を追加します。
たとえば、http://boa.prc.sun.com:80/amserver/UI/Login のような URL になります。
5. 最後に、スーパーユーザーとして次のコマンドを実行してポータルゲートウェイを再起動します。

```
# /sbin/init.d/gateway -n default start debug
```

Web Server のインストール

前にインストールしたバージョンのファイルがインストールディレクトリに入っている場合、Web Server のインストールが失敗する (バグ ID なし)

解決策 設定ファイルをすべてバックアップします。続いて、Java Enterprise System インストーラを使用して Web Server をインストールする前にインストールディレクトリを削除します。

ローカライズに関する問題

「カスタム設定」インストーラ画面が、不正なテキストレイアウトで表示されることがある (6210498)

解決策 ウィンドウのサイズを変更します。続いて、「戻る」と「次へ」をクリックします。ウィンドウが正しく表示されます。

単一引用符がパスワードおよびルートサフィックスで許可されない (バグ ID なし)

Access Manager では、パスワード (amadmin などの場合) および Directory Server ルートサフィックスで単一引用符 (¥q) がサポートされません。ただし、バックスラッシュ (¥¥) はサポートされます。

Directory Server 5.1 SP2 がパスワードのリセットを実装している場合、Access Manager のインストールが失敗する (4992507)

Java Enterprise System インストーラを実行するとき、Directory Server 5.1 SP2 がユーザーに最初のログイン時にパスワードを変更するよう要求するように設定されている場合は、Access Manager 2005Q1 のインストールは失敗します。

解決策 Directory Server のパスワードリセットのポリシーを「オフ」に設定します。

アンインストール

アンインストール中に Application Server ディレクトリが削除されない (6229908)。
Sun Java Enterprise System のすべてのコンポーネントをアンインストールしても、Application Server ディレクトリは自動的に削除されません。

解決策

Application Server ディレクトリにノードエージェントまたはインスタンス関連のデータが存在しない場合は、アンインストール後に Application Server ディレクトリを手動で削除します。

再配布可能なファイル

Sun Java Enterprise System 2005Q4 には、再配布可能なファイルはありません。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java Enterprise System で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でご購入先のカスタマサポートに連絡してください。

- 次のアドレスにある、ご購入先のソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
このサイトには、メンテナンスプログラムおよびサポート連絡先番号だけでなく、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、および ProductTracker へのリンクがあります。
- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

問題解決を容易にするため、サポートに連絡する際は次の情報をご用意ください。

- 問題の説明。問題が発生する状況や、その問題が操作に及ぼす影響など
- マシン機種、OS のバージョン、および製品のバージョン。問題に影響を及ぼしている可能性のあるパッチその他のソフトウェアなど
- 問題を再現するための詳細な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

コメントの送付方法

Sun では、マニュアル品質改善のため、ユーザーの皆様のご意見、ご提案をお待ちしています。

コメントを共有するには、<http://docs.sun.com> に移動し、「コメントの送信」をクリックします。オンラインフォームでは、マニュアルのタイトルおよび Part No. が提供されています。Part No. は、マニュアルのタイトルページか先頭に記述されている 7 桁または 9 桁の番号です。

Sun が提供しているその他のリソース

次のインターネットアドレスには、Sun に関する役立つ情報が掲載されています。

- Sun のマニュアル
<http://docs.sun.com/prod/java.sys>
- Sun の上級者向けサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun のソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun のソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun のサポートおよび Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun のサポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun のコンサルティングおよび上級者向けサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun の開発者向け情報
<http://sunsolve.sun.com>
- Sun の開発者向けサポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun ソフトウェアのトレーニング
<http://www.sun.com/software>
- Sun のソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、米国およびその他の国で取得された特許もしくは申請中の特許が含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

使用は、使用許諾契約の条項に従うものとします。

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国およびその他の国における同社の商標もしくは登録商標です。